

二勝内 計良甚四郎
 六港 吾郷多作
 二港 三木七郎右衛門
 二港 森重文雄
 四十七番地町

二勝内 小島武八
 六港 坂井忠助
 二港 鹿田榮太郎
 二港 新谷三之助
 二港 佐野喜一郎
 二港 柴野又造

水産業

四十一番地町 井尻静造
 廿一内番地町 渡邊兵四郎
 色内町 中西磯吉
 界町 中山喜六
 若竹町 福永虎二郎

手宮町 奥村兵助
 廿三番地町 木村圓吉
 青木吉太郎
 布施市太郎
 勝内町 勝内町
 勝内町

西川貞二郎分店
 村谷喜作
 福永作太郎
 中田筆太郎

海産商

海産委託買取商

手宮町 花井島三郎
 八有 甲崎金治郎
 三港 田中武左衛門
 三港 藤野彌三兵衛
 十四内番地町 三井物産會社支店
 色内町 三井物産會社支店

二西谷庄八
 北海道共同商會支店
 中村半兵衛
 小野七三郎
 鹽田安藏
 三浦喜三郎

共成株式會社
 田口樸太郎
 久津米造
 新谷喜作
 作佐都市兵衛
 渡邊三造

和洋太物商

色内町 龜尾紋造
 入舟町 榎太郎
 海運町 向井嘉兵衛

今井藤七支店
 山田吉兵衛
 森川三吾

岡田八十次支店
 中井戸利助

和洋小間物商

手宮町 村上三右衛門
 入舟町 高頭長二

奥山清左衛門
 壽原猪之吉

彦坂廣次
 堀井香二郎

色内町 小松喜重 色内町
 港町 今井壽平支店 色内町
 港町 田卷誠司 山ノ上町
 堀岡長二郎 色内町
 大原仁資 堺町
 今井喜七支店
 清水係四郎
 奥野伯太郎

干物商

色内町 栗村彌太郎 港町
 港町 尾上儀兵衛
 小井安吉 港町
 堀田隆治支店

瀬戸物商

入舟町 壽原重太郎 入舟町
 榎田善吉 色内町
 林 由五郎

回漕業

色内町 北見天鹽漕運會社 色内町
 堺町 大竹回漕店 堺町
 倉内廻漕店 色内町
 岡田廻漕店 南濱町
 鹽田廻漕店 色内町
 西谷回漕店
 牧口回漕店

寫真業

三浦喜八 五番地
 佐久間範造

靴商

三溪十番地 松岡松造 堺町
 小林平三郎

時計商

入舟町 井筒正三 堺町
 永井孫太郎 住初町
 工藤清作

紙商

入舟町 安田榮三郎 色内町
 金 俤

藥店

山ノ上町 坂下久兵衛 入舟町
 角江重左衛門 港町
 近藤 豊
 靱内篤次郎

材木商

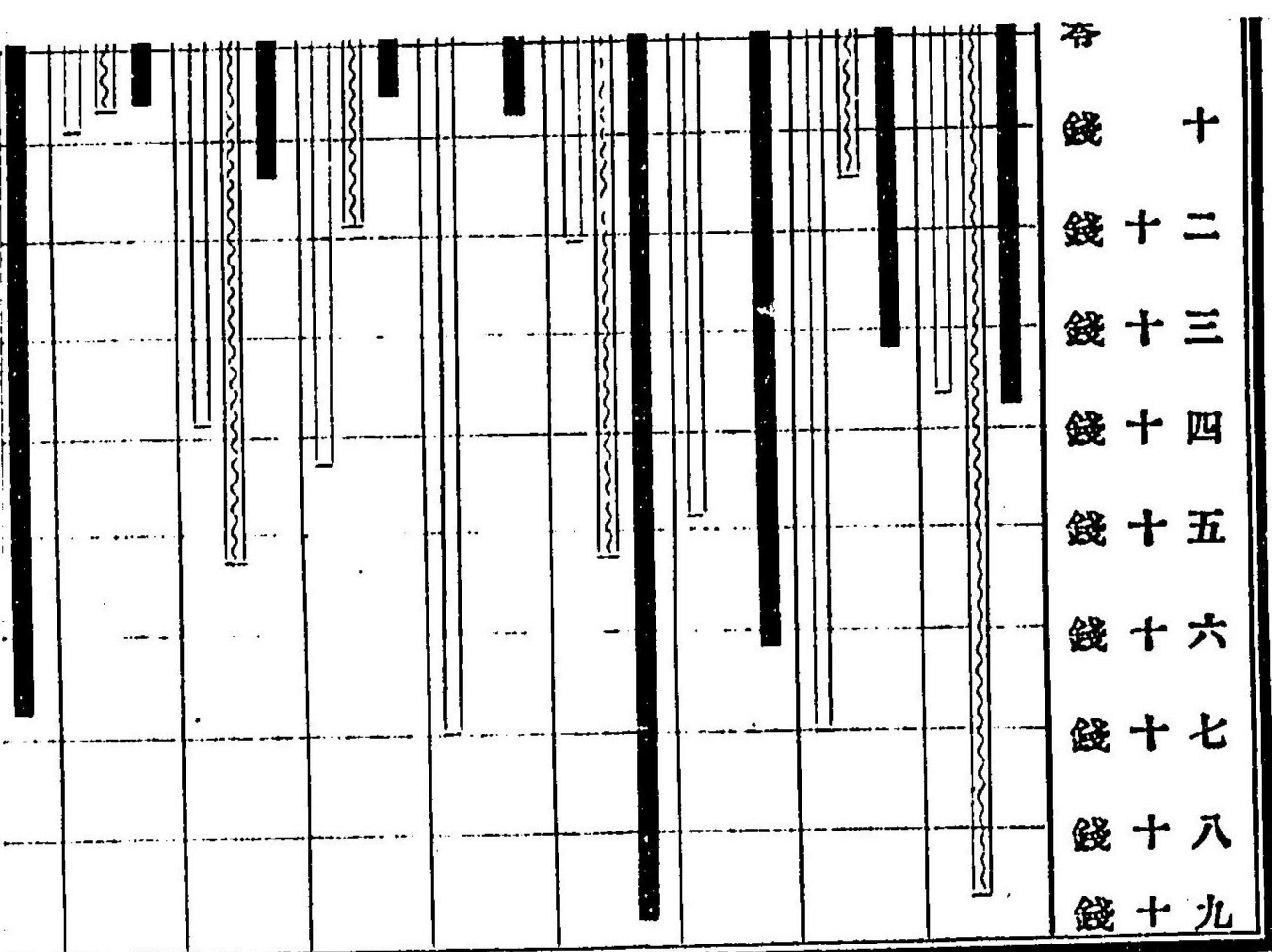
十三番地 今紫竹清吉 有堀町
 食伊藤源三郎 堺町
 菅原吉太郎

精米	一石	金七圓四拾三錢
酒大坂	全	金十九圓二十一錢
酒地酒	全	金十三圓五十二錢
味噌	一貫目	金十一圓三十三錢
醬油	一石	金拾八錢
鹽	一石	金拾壹圓七拾四錢
石油	一箱	金壹圓三拾六錢
炭	一貫目	金壹圓九拾五錢
薪	一敷	金四錢二厘
		金七拾錢(府縣産)

商業取引及貨物集散の模様は數年來沈靜にして配すへきとなし是れ他なし東海岸又は西海岸に於て漁場を有する紳商か諸物品を該漁場へ直輸入するを以てなり又輸出入物品は毎年多少の増減あるも單に前年輸出入品の殘餘有無に依て生ずるものなり而して其數量を配せざるは數百種の物品石貫、筒、樽、丸、等量目の異なるもの統計し能はざるにより價格のみを記す

檜山外五郡 一月二月三月の三ヶ月間は商業至て不活潑にして四月五月六月七月八月九月の六ヶ月は商業盛んなり十月十一月十二月の三ヶ月は三月全操不活潑となる

輸出入品の數量價格及一般の物價

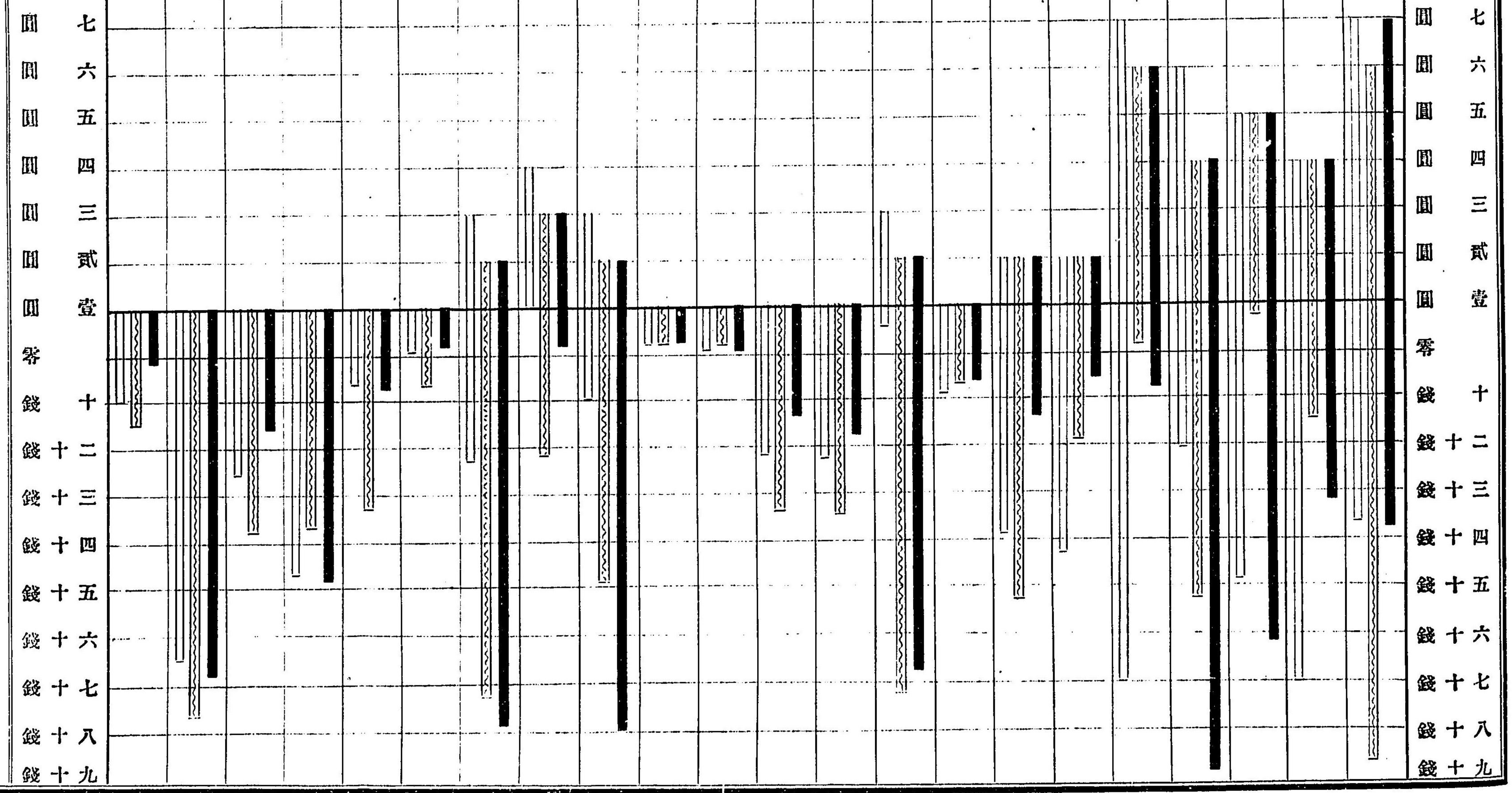


日 用 品 價 格 表

考 備	種 類	半	美	綿	木	炭	薪	石	水	鯉	黑	白	烟	茶	清	味	醬	食	小	大	小	大	米	種 類
		紙	濃	糸	綿			油	油	節	砂	砂	艸		酒	噌	油	鹽	豆	豆	麥	麥		
	量 數	束一	束一	斤一	反一	目貫十	目貫十	函一	斗一	目貫一	斤一	斤一	斤一	斤一	斗一	貫一	斗一	全	全	全	全	全	石一	量 數
本表は明治廿四年中札幌外二地日用品物價を示す其符號線 ■は札幌 ■は函館 □は根室	札	一五七	七九二	二六九	五九三	一七三	八三	一、八九三	二、〇八八	一、九〇〇	五五	八八	二二六	二八四	一、七六〇	一二三	一、二一七	一、二五二	六、一九六	四、九八二	五、七三二	四、四三六	七、四七一	札
	幌																						四、四三六	函
	館	二四〇	九〇〇	四七〇	四五〇	四〇六	一六三	一、八二三	二、三二九	一、六〇〇	五二	八八	二二五	四五〇	一、八二一	一六四	一、六二二	一、二八〇	六、〇九三	四、六二二	五、五一〇	四、三一七	六、九六二	函
	根	二〇〇	七五〇	三八五	五六五	一八五	八九	二、三〇四	三、〇〇〇	二、二〇〇	五五	九五	三六六	三三〇	二、〇八五	一七六	一、四九二	一、五一五	七、八〇〇	六、三〇〇	五、五七五	四、八〇〇	七、六〇六	根
	室																							室

備考
 本表は明治廿四年中札幌外二地日用品物價を示す其符號線
 ■は札幌
 ▨は函館
 □は根室

種類	量數	種類																			種類	
		半紙	美濃紙	綿糸	木綿	炭	薪	石油	水油	鯨節	黑砂糖	白砂糖	烟草	茶	清酒	味噌	醬油	食鹽	小豆	大豆		小麥
札幌	一五七	七九二	二六九	五九三	一七三	八三	一、八九三	二、〇八八	一、九〇〇	五五	八八	二三六	二八四	一、七六〇	一二三	一、二二七	一、一五二	六、一九六	四、九八二	五、七三二	四、四三六	七、四七一
函館	二四〇	九〇〇	四七〇	四五〇	四〇六	一六三	一、八二三	二、三一九	一、六〇〇	五二	八八	二一五	四五〇	一、八一	一六四	一、六二二	一、二八〇	六、〇九三	四、六二二	五、五一〇	四、三二七	六、九六二
根室	二〇〇	七五〇	三八五	五六五	一八五	八九	二、三〇四	三、〇〇〇	二、二〇〇	五五	九五	三六六	三二〇	二、〇八五	一七六	一、四九二	一、五一五	七、八〇〇	六、三〇〇	五、五七五	四、八〇〇	七、六〇六



七六五
 四三貳
 壹
 零
 錢
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 錢

海昆	干貝類	帆立貝身	干牡蠣	鰻魚	煎海鼠	干鮑	其他干魚	干鮑	干鮑	鯨干物類	鮭干物類	其他鹽魚	鯨鹽漬類
二五五五斤	一六二四斤	三九七八斤	三八〇〇斤	一八二〇〇斤	二四〇〇斤	二八七石	二八七石	二八七石	二八七石	二八七石	二八七石	二八七石	二八七石
攝津國大坂外二	武藏國東京	武藏國東京	武藏國東京	武藏國東京	陸奥國青森	陸奥國青森	武藏國東京	武藏國東京	武藏國東京	越後國新潟外一	越後國新潟外一	陸奥國青森外二	陸奥國青森外一
蠟燭類	油類	漆類	紙類	陶磁器	烟草	蔬菜	乾物類	果實	菓子	菓子	菓子	菓子	菓子
二四二斤	二五五斤	二五五斤	二五五斤	二五五斤	二五五斤	二五五斤	二五五斤	二五五斤	二五五斤	二五五斤	二五五斤	二五五斤	二五五斤
越後國新潟外	若狹國小濱外	若狹國小濱外	若狹國小濱外	若狹國小濱外	若狹國小濱外	若狹國小濱外	若狹國小濱外	若狹國小濱外	若狹國小濱外	若狹國小濱外	若狹國小濱外	若狹國小濱外	若狹國小濱外

雞卵	馬	牛	漁及網系類	船具類	繩	藥種	銅鑲類	金物類	木材類	麻及綿類	魚油	生油	雜貨
六九	二五五五斤	三九七八斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤
羽後國能代外二	攝津國大坂外二	武藏國東京	武藏國東京	武藏國東京	武藏國東京	武藏國東京	武藏國東京	武藏國東京	武藏國東京	武藏國東京	武藏國東京	武藏國東京	武藏國東京
吳服木物類	和洋小間物類	木材類	大豆	雜貨	雜貨	雜貨	雜貨	雜貨	雜貨	雜貨	雜貨	雜貨	雜貨
二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤	二五五五斤
攝津國大坂外	攝津國大坂外	攝津國大坂外	攝津國大坂外	攝津國大坂外	攝津國大坂外	攝津國大坂外	攝津國大坂外	攝津國大坂外	攝津國大坂外	攝津國大坂外	攝津國大坂外	攝津國大坂外	攝津國大坂外

經節	三	三	三	長門國馬關
其他海產物	四	三	三	備後國尾道
種物類	四	二	二	越後國新潟
雜貨	三	三	三	陸奥國青森外八ヶ所

壽都外三郡 部内商工業の盛衰は鯨漁業の豊凶如何に關す廿四年は商業概ね盛昌なりしも廿五年は鯨漁の爲り稍沈靜の傾向あり又壽都外三郡の物價は下に配するか如し但し現今の相庭に依る

物價表

品目	單位	價	品目	單位	價
支米	石	六圓九十錢	新茶	一斤	一圓六十錢
白米	石	八圓三十錢	食鹽	一斤並	四十八錢
味噌	貫	二十五錢	薪	一升	四錢
醬油	一貫	八十五錢	柴	十貫	一圓〇〇五錢
石油	一圓	十五錢	經節	一貫	二十五錢
大豆	升	四錢五厘	綿	一貫	一圓〇十〇錢
小豆	升	七錢	麻	一貫	一圓六十〇錢
砂糖	斤	八十錢	木	百斤	八圓十錢
全糖	斤	七十二錢			

大坂酒樽 九圓 十丁 四圓八十〇錢

室蘭外五郡 商業は不活潑なる方なり輸出は鯨粕百九十七石鹽鹼三百七十五石鹽鹼百二十九石干鰯二十五石干鮪百九拾二石煎海鼠九拾八斤昆布四百四拾三石又輸入は米六千六百拾六石味噌千三百八拾三貫醬油百二拾三石油百六拾四石茶五百五拾三斤烟草三拾個石油四百二拾三兩あり物價は米一石九圓五拾錢味噌一樽十三圓四十錢醬油一樽十二圓五拾錢石油一圓一圓十錢大山酒一樽二圓八拾錢大坂酒一樽九圓砂糖一樽白十三圓黑九圓茶一斤上二圓五拾錢下四拾錢とす右輸出入關は各郡の分纏り難し依て室蘭港の分を概記す商業は金融の閉塞より甚た振はす廿三年度より一層不景氣物價は騰貴の勢を示せり

浦河外六郡 商業取引は概して閑散なり輸入貨物は各郡とも幌泉の商賈之を函館或は京坂地方より仕入れ各村落の需要者又は小賣營業人に頒布す輸出品は水産物及大小豆とす但輸出入物品の細目は未詳に付概算金額を掲ぐれば下の如し

浦河郡輸出入四〇、七四圓 沙流郡一、二八〇圓 新冠郡三、八〇四圓 靜内郡二、三、九五〇圓 三石郡入三、七、二七二圓 似那二、七、五、六〇圓 幌泉郡二、九、四、四四圓 又物價は玄米一石八圓より九圓白米一石九圓より十一圓大豆全三圓四五十錢小豆全四圓三十錢鹽一俵六十五錢より八十錢味噌一樽二圓五十錢醬油一樽一圓十五錢石油一罐一圓十五錢地酒一樽二圓大山酒全二圓八九十錢大坂酒全八圓卅錢より九圓なり各郡差

異なるに付大畧をす配るのみ
 岩内古平郡 商業取引頻繁の季節は海産收穫の時にあり貨物集散も同時に在りて各季は總て小賣商を除くの外貸付けのみ廿三年の輸出入の總量入、二、一九、二〇石〇九八(二九、五六六個) 此輸出金四拾七万三千二百拾八圓輸入金二万九千五百三拾二圓なり一般の價格は小樽港物價に大差なし最近の物價米七圓七拾錢味噌一貫目貳拾錢鹽竹原五拾錢醬油一樽八升八拾五錢酒大坂七圓拾錢大豆一石三圓七拾錢小豆四圓六拾錢大麥二圓七拾錢小麥五圓なり毎年四、五、六、七、八の五ヶ月間は商業最も繁忙なりとす貨物も生産季のみ集散頻繁にして秋季より冬季は輸入のみ輸出品なし又廿四年の輸出入は八、八七、三〇七、七二、八一、二個) 此價格金四拾四万九千〇拾九圓六拾六錢八厘なり
 札幌外九郡

郡名	輸 出 原 價	輸 入 原 價
石狩郡	二七、〇一五	三、三〇〇
厚田郡	一九九、九〇七	一七、四五二
濱益郡	一六四、五一五	二〇、七五二
合 計	三九一、四三七	五四、八八五
廿二年	四三八、三五五	二四、二二九
廿三年	二二六、三三三	

本表輸出入品の數量は石、貫、本、個、丸、枚、函、把、束、疋、疋、噸、間、樽、斤等に區別しあり或は貫數に換算し能はず依て是等を悉く列記せんとせば繁雜に堪へざるを以て單に原價のみを掲ぐ

常用品物價表(明治二十四年分)

品 目	六 月	十 二 月
米 上	七、一〇〇	八、〇一三
米 中	六、九七五	七、八三八
米 下	六、八二五	七、七〇〇
大麥	四、六五〇	三、七三三
小麥	五、五〇〇	五、四三三
大豆	五、〇〇〇	五、一三三
小豆	六、四六六	五、四三三
鹽	一、一二〇	一、一〇〇
味噌	一、二二〇	一、二〇〇
味噌 一貫	一、二二〇	一、二〇〇
味噌 一貫	一、二二〇	一、二〇〇
油	二二、五〇〇	二二、五〇〇
大坂	二二、五〇〇	二二、五〇〇
大坂	二二、五〇〇	二二、五〇〇
越山	一六、〇〇〇	一八、三五〇
越山	一六、〇〇〇	一八、三五〇
地酒	一一、五〇〇	一一、〇〇〇

越 若	津 輕	越 中	半 紙(全)	美濃紙(十帖)	炭	石 炭	石 油	水 油	材 木	鐵 全	和 產	洋 產	丁 銅	麻 苧	海 氣
全	全	枚	全	束		一 函	一 石	一 石	一 全	一 分	一 分	一 分	一 百	一 百	一 斤
三五	四五	二七	一四五	七八〇	一六〇	八〇	二二〇	一、八八〇	二〇、〇〇〇	二二、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二二、〇〇〇	一、一四〇	九三〇	三三〇
四〇	四五	三三	一四五	八〇〇	一九〇	八五	二二〇	一、七五〇	二〇、〇〇〇	二二、七五〇	二〇、〇〇〇	二二、〇〇〇	一、〇八〇	九三〇	三三〇

燒 酎	茶 香茶粉茶	白 砂糖	赤 砂糖	黑 砂糖	鯉 節	煙 草	木 綿	和 產	洋 產	金 巾	生 系	裏 地	裏 地	裏 地	裏 地
一 百	一 百	一 百	一 百	一 百	一 百	一 百	一 百	一 百	一 百	一 百	一 百	一 百	一 百	一 百	一 百
二、三、五〇〇	二、八、〇〇〇	八、四〇〇	九、八五〇	九、二〇〇	五、三〇〇	一、八〇〇	九、八〇〇	五、八〇〇	二、四〇〇	二、六、八〇〇	二、四〇〇〇	二、二、〇〇〇	二、二、〇〇〇	二、二、〇〇〇	二、二、〇〇〇
二、三、八〇〇	二、八、一〇〇	八、二〇〇	八、一八〇	九、八七〇	九、六七〇	五、二〇〇	二、一〇〇	九、八〇〇	五、八〇〇	二、七、〇〇〇	二、四、〇〇〇	二、二、〇〇〇	二、二、〇〇〇	二、二、〇〇〇	二、二、〇〇〇

繩	疊	(沓 莖)	一 枚	六五	五七
大間繩	一 疊		五〇〇	五五〇	
中間繩	一 丸		五〇〇	四五〇	
酒田繩	全		三七〇	三〇〇	
	全		一九〇	二〇〇	

本表價格は米を除く外中等品の卸相場を旨とし調査せり然れども中には中等品拂底賣買なきものと産地品位の格別なるに依り價格に多少の差違あり故に本表の相庭は獨り時價の昂低に起因するものにあらざるとぞ知るへし

釧路外十一郡

名	石	名	量	米	價
昆布	五五三三石四	白米	九九三六石	一 升	九圓五十錢
吐瀉	六一二〇斤	鹽	三五六八石	十三貫目入	二十錢
乾鮑	九六石	味噌	二二八〇石	一斗入	二圓六十錢
乾鱈	七三三石	味噌	三三四石	一圓より二圓迄	一圓五十錢

名	石	名	量	米	價
鹽	九八一二石	酒	一二五六石	一 升	二圓八拾錢
鹽	四二四石			二圓	八拾錢
鯨	一五二五石			一圓	八拾錢
雜粕	三三六七石			中細一担	八拾錢
硫黃	七〇〇〇石			自上一斤	八拾錢
石炭	二三五噸			六星	十圓

釧路市街は物貨の集散十三郡に冠し商業の取引隨て繁劇なり厚岸は之に亞き他は皆な漁村なるを以て漁期中雇夫の入り込む時のみ僅に景氣を添ふるのみ仕出地は皆函館よりす輸出品の總金額は六十一万六千二百十五圓にして輸入品は前記の外に茶砂糖菓子煙草布帛綿類家具鏡等此價拾一方二千九百五拾六圓にして前記の分と合せ貳拾四万三千七百二拾八圓となる

網走外三郡 明治廿三年輸出入品の價格に於て輸出は五万一千八百四拾二圓輸入は二万七千二百四十三圓全廿四年に於て輸出二万四千七百五拾七圓輸入十三万五千八百二十六圓なり又物價は馬鈴薯一石金一圓粟一石八圓蕎麥一石五圓大豆一石八圓麥一石八圓六六七七米一石九圓二七五麻十貫目五圓蘿蔔百本一圓精米一石十一圓五鹽一石貳圓三三五味噌一貫目金三十錢醬油一石十九圓八

九六薪一貫目六厘炭一貫目三錢一厘なり
 商業取引は甚だ頻繁ならず輸出入品は個石或は貫等千種万類なるを以て掲載せず右に掲ぐる代價は北海道外の府縣へ直輸出入にして北海道内の各港へ出入は統計なき故配載するに由なし然れども例年の比較に依れば凡そ他府縣輸出入の三倍強に相當すへし廿四年の輸入非常に多かりしは網走分監需要品の他府縣より直輸入ありしに依れり本項を配するに際し殊に一言すへきは港灣の完全ならざること是なり之か爲に輸出入品の價格に多少の影響を與へ事業の不便を致すは拓殖上の一大遺憾とす若し築港事業の行はるゝに至らば物産の増加を致し生産社會に生面を開くと蓋し測るへからざるものあり天産に富めること當地の如くにして一良港を有せざるは惜むべきの至りと云ふへし

小樽外六郡 七郡内商業取引の繁なるは毎年五六月頃より八九月頃迄とす然れども廿五年は釧不漁の爲め日本形船の入津も例年より多からず金融も不活潑なるにより取引上概して緩慢の姿なり尤も秋冬に向ふに隨ひ貨物は小樽市街に集まりて増毛其他の各地方へ散出するものなるも商氣兎角不振の模様なるを以て貨物の集散疎なるものし如し

輸出入品數量表

地名	輸出	輸入
小樽港	一七、三三三、四七七	六、二七、一六八七
古平灣	一七、四、九六六	九、〇三六
忍路灣	三、五五、〇三三	二、八八八
美濃灣	三、三、八八〇	五、七、八八八
余市灣	三、八、七、九四六	一、九、七、三三三
積丹灣	九、九、八八三	三、九、七、七九

物價	品名	數量	單位	價格
米	大麥	全	石	七、〇〇〇
	小麥	全	石	六、〇〇〇
大豆	全	全	石	五、二、三三三
	全	全	石	五、七、六七
鹽	全	全	石	一、〇〇〇
	全	全	石	一、〇〇〇
酒	大坂	一	石	一九、〇〇〇
	砂糖	全	斤	八、六〇〇
糖	全	全	斤	六、〇〇〇
	全	全	斤	八、七〇〇
草	全	全	斤	四、五〇〇
	全	全	斤	二、六〇〇
木綿	全	全	箱	一、〇〇〇
	全	全	箱	四、五〇〇
晒木綿	全	全	箱	一、〇〇〇
	全	全	箱	四、五〇〇

魚油	海藻	昆布	帆立貝身	煎海鼠	乾鮑	乾魚	乾鮑	乾鮑	鮭子	鹽鮭	雜魚	練柏		
三、九〇七	七、〇〇〇	一、五八〇	七、三〇〇	二、〇〇〇	一、五〇〇	七、二〇〇	二、〇〇〇	一、五〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇		
二、七五九	一、九四八	二、〇〇〇	一、六〇〇	五、一五三	三、一〇九	七、五九九	一、〇〇〇	一、八二五〇	一、五〇〇	四、〇〇〇	六、六	一、七五九		
六、二六六	十、百斤	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	十、百斤	六、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	九、八八八	五、〇〇〇	五、五二一		
合計	二、五五九													
麻及綿類	和洋小間物類	吳服太物類	蠟燭類	種油類	漆器類	紙磁器類	煙草類	茶子類	砂糖類	粉類	酢類	西酒類	日酒類	醬油類
一、〇〇〇	三、〇〇〇	一、三〇〇	四、九〇〇	一、五九〇	一、三〇〇	一、二〇〇	八、四七〇	一、二六五	六、七二一	七、〇八七	二、七二二	一、八五五	三、〇〇〇	一、二七二
二、八二二	三、〇〇〇	四、七〇〇	二、〇〇〇	二、七六六	二、九四九	二、一七二	八、九二一	六、六六七	四、九五九	一、三三九	一、三三九	一、三三九	五、五二六	一、一四三
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
合計	二、五五九													

留前郡も亦近來豊漁なかも商業取引上は先づ活潑の方なり貨物集散の模様等も増毛郡と大同小異なるを以て之を贅せず左に廿四年分の輸出入品の數量價格及一般の物價を掲記す

木物類	金物類	銅鐵類	繩類	蕙類	船類	源網及網糸類	鶏卵類	鰹節類	雜海産物類	合計
一、六四八	三、三二四	二、七二〇	一、四三三	一、四三三	二、七二〇	八、九二〇	七、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、五五九
二、〇八七	五、九八〇	九、七七八	四、七七八	四、七七八	八、九二〇	七、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、五五九
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
合計	二、五五九									二、五五九

品目	數量	價格	一般の物價
身次	一、〇九九	五、四九三	五、〇〇〇
胴	一、八八九	八、六九三	八、〇〇〇
練	二、〇〇〇	一、七九五	七、三三〇
品目	數量	價格	一般の物價
玄米	八、〇〇〇	五、九六〇	五、九六〇
白米	七、〇〇〇	五、八四五〇	五、八四五〇
大豆	二、五〇〇	一、五九七	一、五九七
合計	二、五五九		

第十篇 外國貿易

沿革事歴

徳川幕府曾て海外貿易の輸出入平均を失ひ金銀貨濫出の害を防かんと欲し倭物諸色を以て其代物に供せり昆布は即ち諸色の一なり延寶年間長崎會所に於て試に昆布を清國人に賣渡したるに始まり次第に海外に販路を擴め明治年間の輸出歳額は凡そ千三百石に達せり天明年中長崎の倭物役所の直取引となるに及んで函館に倭物方を派出し昆布を買收して之を長崎に輸送せしむ爾後漸次増加して三千石餘となれり右輸出昆布の種類は當初龜田地方の元揃昆布及花折昆布を主とせしか需要増加するに従ひ漸く奥地の産即ち日高、十勝、釧路の昆布に及へり寛政七年の輸出高は四千石に上り文化二年に至りて二千石に減し六年又三千石に増し十年二千石に復す刻昆布は文化年中始めて試賣し天保二年南部昆布の仕入を止め専ら函館昆布のみを仕入年々二千石以上となりし三石昆布の如きも文政年中より輸出を初め大に嗜好に適し又根室昆布は天保年中始めて採取せりと雖も得失相償はすして中止し安政年中花咲に於て採取業を再興したり是れ開港以來其需要の頓に増加せしを以てなり當時三石昆布請負の定額は千匁煎海鼠等と同しく一定の額あり文久年間の定式三石昆布は請負人杉浦嘉七氏之上納し二千石即ち五十万斤にて代價三千六百四十四兩一斤諸入費を合せて永六文二分八厘八毛餘とす三石は後に名義のみにして十勝、幌泉、靜内、浦河産等

てを混入す是より先き文久元年一兩に付二十七貫目替を以て買上しか圓昆布を合して二千石を増加せんことを示達せしに薄生且つ市場相場十八貫目替なるを以て請負人より直増買上を請求せり然れども外國人賣渡には一定の標準ある爲め此一年に限り高價に買上るを得ず依て請受を斟酌し二十四貫目替を以て二千石を買上ることを諭達す請負人尙は承諾せず長崎會所より奉行所に歎願するに至れり

元來倭物諸色には地元仕入代と唐方賣渡代との二様あり昆布は元買直段一斤一分七毛にて賣直三分三厘乃至二分とす安政六年開港條約成るに及んで長崎の商買下の關に來り内國船の函館より昆布を積載し來るを買取り之を長崎に轉輸して清商に賣渡せり是に於て忽ち價格騰貴の狀勢を顯し百五十兩圓内外の相場となり万延元年は二百十五兩とあり尙ほ進んで四百三十圓餘に騰上せり上海にては市場の相場七百圓内外となり慶應三年清商成記號函館に店舗を開設し大に昆布を買取したり當時函館の相場五百七十圓内外にして輸出高二万石内外なり明治元年清商成記號函館に於て専ら買收に従事し五百四十圓より七百八十圓迄に騰上し輸出高三万石以上と成る三年價格順に上り十月下旬千二十圓迄に騰り古來未曾有の暴騰を呈す此歲清國へ輸出高は凡う四万七千石とす翌四年各收穫地競ふて其產出高を増加せしより函館市場の需要に超過し遂に八百五十圓より五百圓迄に低下し五百八十圓より四百圓と成れり當時函館に開通社を起し直輸の途を開きしより六

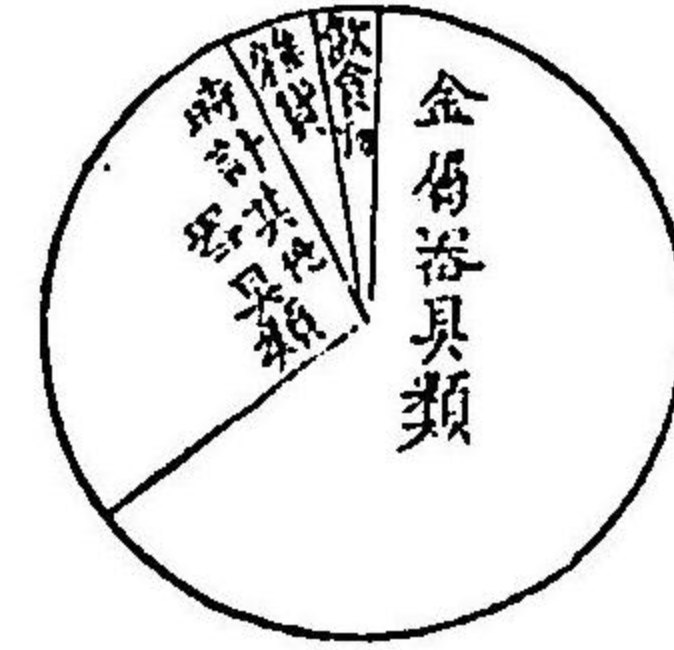
年に至り產出愈々増額して供給愈々平均を失ひ四百圓より二百五十圓内外と成れり尙低落して圓昆布となり其價百二十圓迄に低落せり此歲海外輸出高九万二千石餘にして之を維新前の輸出に比するに殆んど四倍餘を増加せり當時上海に於ては物品市場に堆積して販路最も滯滞し竟に非常の低下となれり爾來内外共に商況萎靡振はず産地も亦大に收穫を減す七年は前年の餘響未だ商況を挽回せず賣買の價格も三百五十圓なりし故に八年は愈々產出減少して海外輸出高五万五千石内外に止り是より漸く價格を騰上し五百五十圓より七百圓内外に進みしも九年復產出を増加し五百五十圓より二百八十圓迄に低落し同七年廣業商會を創立し政府之を保護して専ら清國貿易に従事せしめんとを決し資金を貸與して價格の回復を圖らしむ當時函館の相場五六百圓の間を昇降し上海は二兩四五匁に上れり十一年は洋銀の騰貴と資本貸與の法あるに因り採取の量亦増加し隨つて清國輸出高を増加せり就中十四年の如きは十二万石以上に及ひたるも製造の粗悪なる爲め需要滯滞し上海市場の倉庫に於ける貯藏品は腐敗して擲棄するに至れり十六年春函館相場は百石廿圓迄に低落せり既にして舊根室札幌二縣は昆布採取規則を設け改良を計畫せしに因り濫出の弊漸く熄み上海貯藏の古昆布始めて跡を絶つに至れり爾後年々出額を減せりと雖も競賣の弊漸く生し價格愈々低落し百石二百圓内外に下れり此に於て一手販賣の議起り生産者を一致團結せしめ聯合組合を結び日本昆布會社を設立し聯合組合と相約し價格を豫定するに至る(其顛末は別項に詳記せり)

海外輸出入物品原價表

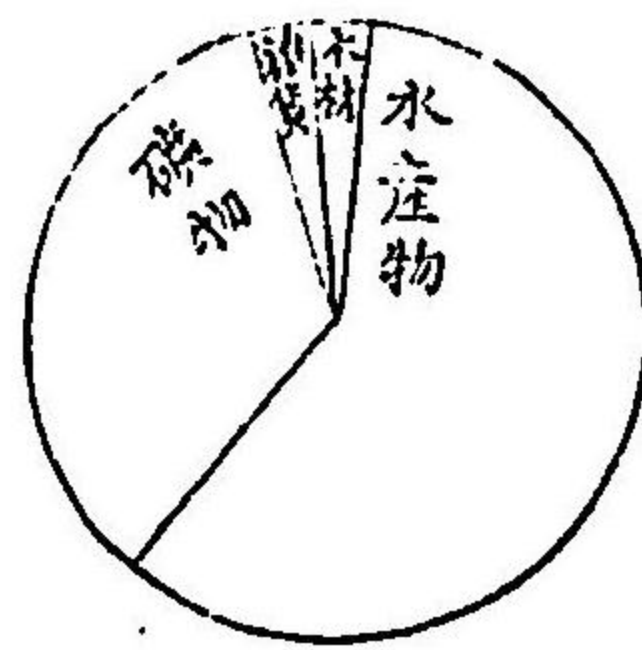
備考

本表は函館小樽兩港の輸出入物品原價を示す上欄圓形は最近三ヶ年間平均輸出入の類別なり下欄は最近十ヶ年間輸出入原價なり但劍路港には掲載すべき事實なし又其符號線▲は輸出▽は輸入を示す

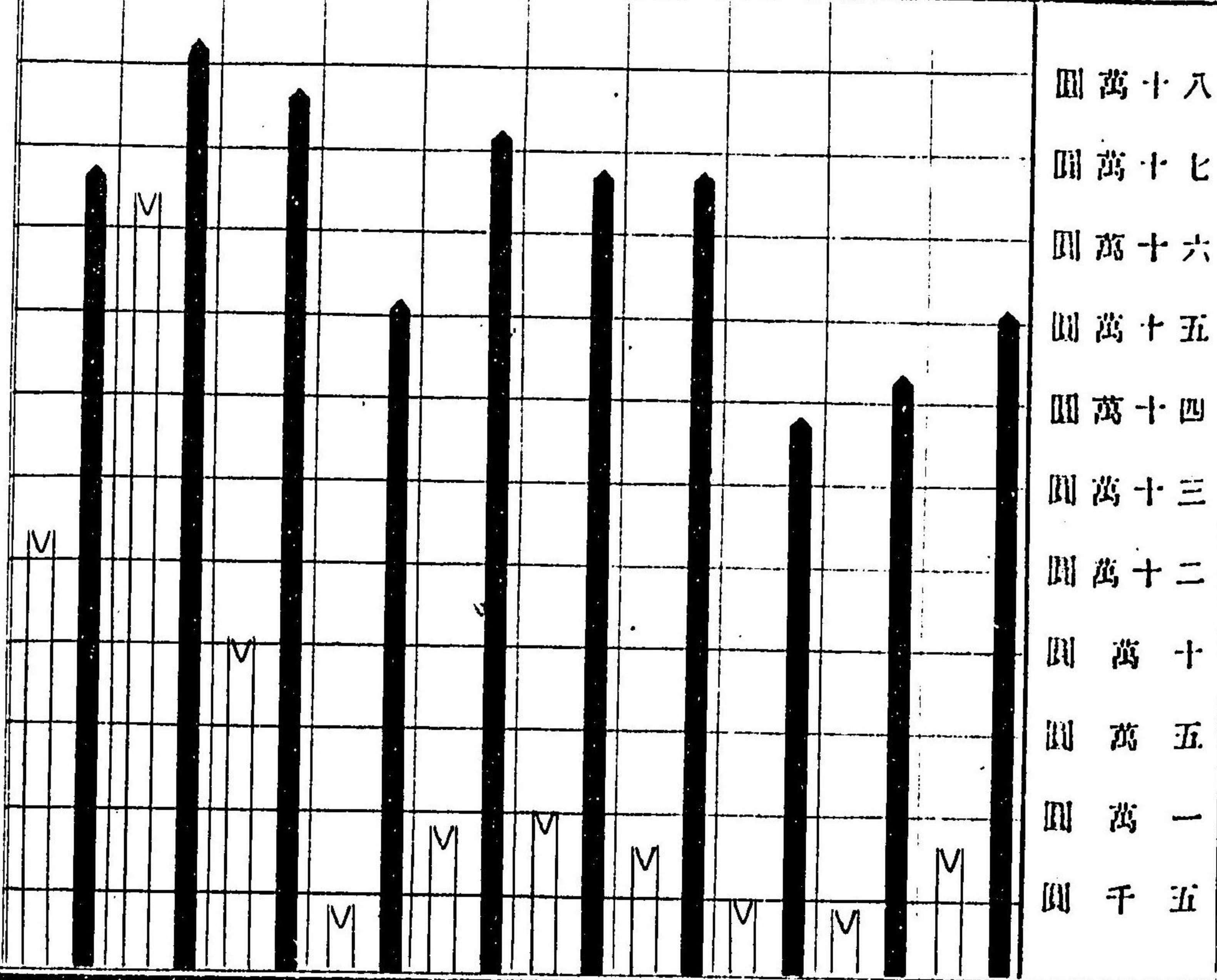
輸入



輸出



年次	輸出	輸入
明治十五年	五〇四、九五三	七、四一七
全十六年	四三六、七五〇	四、三七八
全十七年	三七八、九一三	五、〇〇四
全十八年	六八一、二九四	六、七六五
全十九年	六七九、三三八	一六、一八五
全廿年	七三五、四七六	一一、四二一
全廿一年	五三六、〇五四	四、一三二
全廿二年	七八一、四四六	一一七、七〇五
全廿三年	八四二、八三七	六七六、五三四
全廿四年	六八二、二一九	二二七、四八一



日本昆布會社

役員

專務取締役 下村 廣 畝 在横濱出張所

取締役 鹿島 萬 兵 衛 在函館本社

全 赤 壁 二 郎 在上海出張所

外監査役三名 相映役一名 事務員五十七名

所在地 函館 船場町貳番地

出張所 横濱 本町壹丁目廿番地

全 上海 英租界泗川路三井銀行内

設立起源

昆布は北海道の特有産物にして清國輸出の起源遠く二百年前延寶年間在り降て慶應明治の交販路順に開け輸出額大に増加し今年に拾餘万石に達し日清貿易品の首位を占むるに至れり然るに從來昆布は専ら在留清商に倚りて販賣せられたるを以て議價の主權亦自ら清商に歸し相庭の如き勢ひ彼の左右する所となり本邦商人は常に其掣肘を免かれず遂に授受上に於て種々弊害を生ずるのみならず年々競賣の風起り當業者の損失少からず生産の業漸く退縮せり是より前政府は開通

社を設けて昆布直輸出を圖り又價格を維持せしめんか爲め廣業商會を保護せしと雖も方法時宜に適せざると他の支障の爲め遂に閉鎖の不幸を見るに至れり價格益低落して生産者は収支相償はす非常の困難に陥れり是に於て政府は官吏及當業者を清國に派して需要供給の度より價格維持の方法を調査せしめ次て全道の實業家を招集して其意向を諮詢し茲に多數の決議に基き全道各地に昆布營業人組合を組織せしめ各組合を結んで聯合組合を作り以て生産及販賣の取締方を設け又價格を挽回して益々斯業を振興し且價格を維持し生産者の利益を増進するの目的を以て一手販賣の法を立て明治廿二年五月當會社を創設し聯合組合との契約により組合員の産出する昆布は舉て當會社の一手を以て輸出販賣するに至り爾來競賣の弊熄み多年清商に壟斷せられたる商權を回復し價格を挽回して生産者の利益を増進したるとは内外人の熟知する所なり且價格の騰貴と商權の回復となり貿易に於ける我國益の増加又決して小ならざるなり

營業種別資本金及利息

當會社は北海道の昆布を賣買し又錫鮑煎海鼠干刺昆布等都て清國輸出海産物の賣買を以て其本業とす資本金は五拾萬圓にして壹万株(壹株金五拾圓)に分ち内目下拂込額は金三拾五万圓(壹株に付金三拾五圓)なり其利益配當高左の如し第一期配當金三万圓當時拂込額(貳拾貳万五千圓)第二期全金三万四千四百圓當時拂込額(三拾万圓)第三期全金三万三千四百圓當時拂込額(三拾万圓)なり

沿革專歴

明治廿二年四月當會社設立の願書を北海道廳に出し又同時に社長官撰の義を請願す翌五月道廳長官の許可を得特に廣田理事官に非職を命し當社長に撰舉せらる次て發起人總代の互撰を以て副社長及取締役三名を撰定し六月函館末廣町に於て業務を開始し又清國上海及東京に出張所を設置す同月株金第一回拂込を七月同第二回拂込を募集し東京に於て株主臨時總會を開き定款更正の件を議決せり十月大藏大臣の特許を得て釧路厚岸等の生産地より昆布を清國に直輸出す蓋し之を以て本邦昆布産地直輸出の嚆矢とす十二月當會社株式定期賣買を許可せらる原來商業會社の株式は滿一ヶ年以内定期賣買を許されざるものなりと雖も大藏省及株式取引所は業務の確實なるを基礎の堅固なることを信用せられ此特許を得たるは當會社の實力を社會に公表したるものと云ふへし越て廿三年一月當會社約束手形再割引の件日本銀行の約諾を得世人の信用一層重きを加へたり四月東京に於て株主定式總會を開き第一期間業務の成績及諸勘定を報告し利益金配當の割合を定め又臨時總會に於て定款更正の件を議決せり五月聯合會議を札幌に開き契約を更正し次て廿三年度の昆布價格を協議決定し六月株金第三回拂込を募集せり七月業務の都合を以て本社を函館船場町に移す廿四年四月東京に於て株主定式總會を開き第二期間業務の報告と配當金額を議決し定款によ

り副社長以下取締役の改選を行ふ孰れも重任せり五月聯合會議を函館に開き更に諸契約を締結し又廿四年度の昆布價格を定む六月横濱に倉庫を新築し昆布は北海道各産地より直ちに横濱に集載するに至り従來函館に集載しかるに比し大に運賃其他の費用を減せり九月官撰社長及副社長取締役一名辭職に付臨時總會を開き定款を更正して正副社長を廢し取締役及監査役を置く次で取締役及監査役を公撰し更に取締役の互撰を以て専務取締役一名を推撰す十月業務の都合を圖り東京出張所を横濱に移す廿五年一月横濱に刻昆布製造所を設く五月聯合會議を函館に開き諸契約及廿五年度昆布價格を協議決定し八月株金第四回拂込を募集せり

物品仕入と販賣の現況

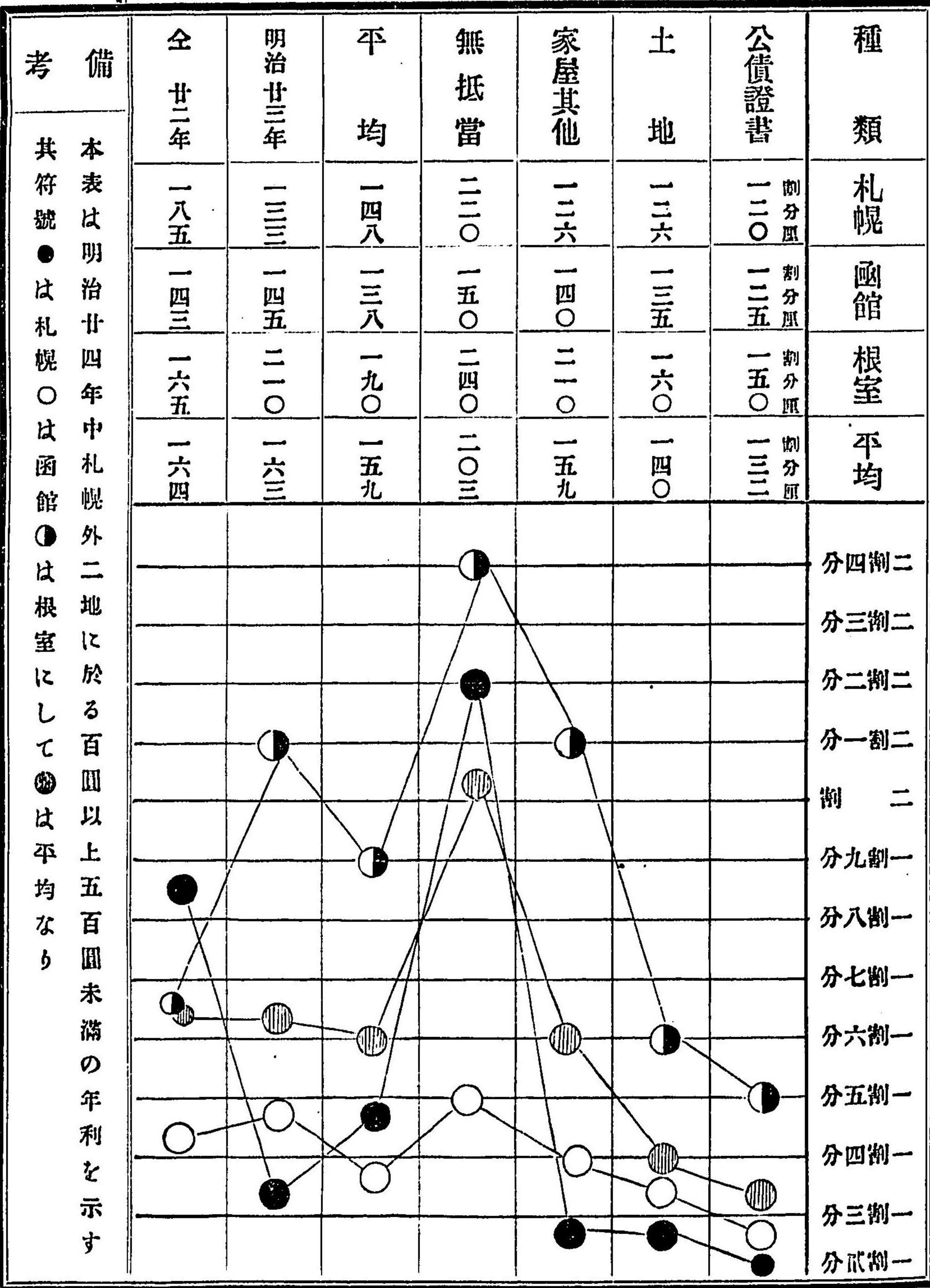
目下當會社の昆布仕入所は千島國國後郡及根室國花咲郡より釧路十勝日高の各國郡を通し膽振國室蘭に至る東海岸一帯並に渡島國上磯郡を合して七ヶ國十六郡と西海岸に於て増毛利尻禮文の三郡とす當會社の昆布は總て自ら清國に輸出販賣すと雖ども内國の需要に適する種類に限り東京大坂函館其他の地方に於て販賣するものとす各市場昆布の商況は一手販賣の方法時宜に適し爾來大に面目を一新し内外の商權既に會社に歸するに至り市價常に佳況を維持せり當會社設立前後に就き昆布價格騰貴の割合を概説すれば去廿一年産地相場上等百石に付二百五十圓乃至廿圓なりしも會社設立により廿二年は三百七十圓に廿三年は四百十圓に廿四年は四百二十圓に廿五年は四百四

十圓に騰貴せり又去廿一年上海相場平均六百圓内外なりしも一手販賣の結果により逐年上騰し本年の如きは一擔に付貳兩五匁(百石凡八百五十圓)以上を唱ふるに至れり之を要するに廿二年會社設立により爾後四ヶ年間に於て生産者か直接に受けたる利益は凡七拾万圓に下らず我貿易上の収益は無慮九拾万圓に達するは敢て疑を容れざるなり

昆布販賣に關する將來の方針

抑も清國は人口四億方に下らず其地海に乏しくして國人の海産物を嗜好すると最も甚し就中昆布の如きは多年習慣上必需の食料に屬し到底目下の輸出額を以て遍く其需要に供する能はざるは論を俟たず然るに目下我北海道昆布生産の情況を顧みるに未だ決して其發達を極めたるものと云ふ可らず從來撿採せるものは専ら東海岸一帯の地方にして其他に至りては採取甚だ稀に空しく海底に枯死するもの幾何なるを知らず故に當會社は内に於ては輸出税免除其他生産經濟上未だ盡さるものを改良し益々斯業を振作して國家富源を啓發し外に在ては一手販賣の方により清國北部に於ける露國産昆布を擠排して大に内地の販路を擴宏し我商權を伸張して國益を裨補せんとを期するものなり

一 表 利 金 借 貸



備 考
 本表は明治廿四年中札幌外二地に於る百圓以上五百圓未満の年利を示す
 其符號●は札幌○は函館◎は根室にして◎は平均なり

労働者の賃銀は漁場雇夫給料を除くの外概して年々高値なく又毎年地方相當の工事あるを以て一般の生活上平穩にして異狀なし

檜山外五郡 當地方一般漁業を以て生活の基となし一年中の事業は概ね前年十一月末より翌年二月迄の間に於て計畫するの慣例にして漁業資本商品仕入等の爲め金銭の融通は該四ヶ月間に最も多く利子は大概年利を以て通算す月利の如きは例年取引甚だ稀にして隨て異動なかりしも近年に於ては稍や金融活潑の勢を呈し一二月間にありては沈滞の姿なりしも三四月頃より船舶の交通開始するにより漸次金利に變動を生し六七八ヶ月間に至り全く其騰昂を極む蓋し此活潑なる勢を呈する所以のものは海産物製出等の爲め自然取引上繁劇なるに起因せしものゝ如し而して九十兩月間に及て漸く低落に赴き遂に十一月に至り當初の位置に復せり然れども是等は一時の景況にて僅かに利子の歩合に變動を呈する迄とす

右の現況なるにより日歩を以て貸借するか如きの取引は當地には未だ行はれざるものにして其流通資本高の如きは拾万圓内外ならん今ま金利の景況を掲ぐれば別表の通りなり

日 家 下 漁		雇 女 僱 女	
男	女	男	女
二	五	二	五
十	十	十	十
二	五	二	五
八	十	八	十
四	四	四	四
十	十	十	十
五	五	五	五
十	十	十	十
十	十	十	十
五	五	五	五
二	二	二	二
四	四	四	四
圓	圓	圓	圓
錢	錢	錢	錢

金融及貸借 五百三十四

八月	九月	十月	十一月	十二月
無有	無有	無有	無有	無有
全	全	九八〇〇	全	全
全	全	〇九〇〇	全	全
全	全	一〇二〇〇〇	全	全
全	全	三三三五	全	全
全	全	六五八七	全	全
全	全	一一二二	全	全

賃金表

種別	檜山郡	爾志郡	久遠郡	奥尻郡	太樺郡	瀬棚郡	生活
漁夫	最高三拾圓 最低四圓	全上	全上	全上	全上	全上	困難せず
日雇	二拾六錢	全上	全上	全上	全上	全上	全
大工	全三拾五錢	全三拾五錢	全四拾五錢	全四拾錢	全四拾五錢	全四拾五錢	全
左官	全四拾七錢	全三拾貳錢	全三拾五錢	全三拾五錢	全四拾錢	全四拾錢	全
木挽	全三拾五錢	全四拾三錢	全四拾錢	全五拾錢	全五拾錢	全五拾錢	全

漁夫の賃金は各郡皆同一なり其の過半は皆他府縣重に青森秋田石川新潟岩手地方より來り鯨漁期經過すれば郷里に歸る地方に永住する漁夫は概ね相當の生活を營むものなり雇大工左官木挽等の賃銀各郡高下あるは需要供給の關係もあり又地方に各自の習慣相場あるに由るなり日雇も年中日

雇業をなすにわらず或は漁夫となり或は雜業を營み以て生活の資となすを以て概ね困難せず大工左官等亦然り

壽都外三郡 金融は廿五年鯨の薄漁に伴ふて閉塞せり故に金利も案外高く即ち左に記する所の如し

利率	五千圓未満	五千圓以上	百圓未満
最高	年利一割二分	全壹割三分	全壹割四分
最低	全一割	全壹割一分	全壹割二分

但し月貸百圓未満の利子は壹圓に付金五錢乃至六錢なり流通資本は調査し難し

室蘭外五郡 概して不融通勝なり室蘭郡に於ては百圓以上金拾圓に付利子金二十五錢百圓以下金十圓に付金三十錢なり而して外五郡も亦大同小異なるへし

大工石工其他人夫に至る迄廿二年頃は其數倍々にて大工賃銀三拾五錢人夫三十錢位なるに廿三年鐵道布設の擧より諸職工俄に倍益するも却て賃銀高昇せり其基因二あり一は米價の騰貴一は需要者の數多きを加へたる所以なり目下大工一日賃銀五十錢人夫一日金四拾錢石工一日金六拾錢女人夫金二拾五錢なりとす又五郡とも常食は米麥を用ひ日常の衣服は多く木綿を用ひ家屋は椗或は葦を以て葺き西洋風の木造煉瓦等の住家なく一般生活の度は低き方なり

浦河外六郡 金融は昆布採取期節即ち七八月頃に於て流通圓滑なり冬季は概して逼迫なるが如し
 金利は普通二分五厘流通資本高は之を知り難しと雖も大畧左の如くなるへし浦河郡四万五千圓沙
 流郡二万五千圓新冠管内二郡五万圓三石郡二万五千圓襟似郡二万七千圓嶮泉郡四万圓
 各種労働者は需要供給の割合宜しきか爲め甚しき競争なく何れも相應の事業に就き生計上左まで
 困難を見ず其貸金は各郡多少の差あり概畧を掲ぐれば下の如し土方人夫一日三四十錢大工四五
 錢屋根葺六七十錢木挽七十錢農業雇夫一ヶ年三拾圓昆布採收全一期拾五圓鮭漁全一ヶ月五六圓
 全一ヶ月四圓乃至四圓五拾錢なり

岩内古平郡 金融は生産季節を除くの外甚だ緩慢なり蓋し一ヶ年生産價格の十二分の一を三分に
 したる金圓は常に融通してあるへし其高は概算左の如し一ヶ年の生産價格五十七万七千二百二十七
 圓六拾錢之を十二ヶ月に配當すれば四万八千圓餘となる此三分の一か毎月の融通高一万六千〇
 三拾四圓餘となるへし金利は年利三割月利三分より四分日歩は曾てなし
 労働者の賃銀を細別すれば農作一日金二拾五錢養蠶金三拾錢大工金四拾五錢左官金五拾錢木挽金
 四十五錢日傭金三拾錢平均三拾七錢五厘なり又生活の有様を細別すれば大工左官は飲食とも上等
 にして農作養蠶木挽日傭等は一般職人と比較する時は劣等なり労働者常に賃銀を得ること容易な
 るを以て飲食に徒費して概ね貯蓄するものなきか如し

札幌外九郡

抵當種類	一万圓以上	一万圓以下	五千圓以下	千圓以下	五百圓以下	百圓以下
公債證券	一、〇八	一、一〇	一、一五	一、八一	一、二〇	一、五〇
土地	一、二〇	一、二二	一、二三	一、二四	一、二六	一、八〇
家屋其他	一、二二	一、二三	一、二三	一、二四	一、二六	一、八〇
無抵當	一、八三	一、八八	一、九三	一、九八	二、二〇	二、二〇
有抵當	一、二二	一、四	一、六	一、九	二、三	二、六
無抵當	一、五	一、七	一、八	二、三	二、五	二、八
有抵當	一、	四〇	四二	四五	四八	五〇
無抵當	一、	四三	四五	四七	五三	五五

年利は一ヶ年月利は一ヶ月中の高抵を平均調査せしものなり流通資本高概算等は曾て調査せしこ
 となりし

農工及諸雇賃銀(二十四年十二月末調)

業	名	上	中	下
農作日雇	男一日賃錢	三〇〇	二五〇	二〇〇
	女全	二八〇	二〇〇	一五〇

理由なるを以て若し爲替手形等の機關にして備はる時は産出物の價格に大膽費を現する當然の理なるへし海運の不便亦た與りて力あり流通資本の如きは地の新開に屬するを以て各自日用品に充つる資あるのみ

當地は労働者割合に多し且つ此地に至るものは概ね釧路根室を經たるものにして北海道の悪習に染み怠惰の風あり晴天好日も傾厥飲酒して其の賃銀は廉ならず若し善良の労働者たらんには夏期に於て其報酬月十圓内外を得ること實に易々たるへし其次第下の如し大工一日六十錢労働者は四十錢理髮賃拾五錢湯浴自二錢至二錢五厘人力開墾一坪に付一錢三厘馬耕凡八厘又函館に於ては八圓の米價も當地に至れば拾一圓以上の價格を生ず故に労働者の食料は雇主の定は三圓なりと云ふ下等の下宿料とも五圓以上を要す

小樽外六郡 當地方の金融金利は漁業の如何に依るものにして今之を概言すると能はずと雖も本年の如きは不漁等の結果により融通不活潑隨て金利の如きも騰貴せり半年とても概して七郡の金利廉ならず又資本高の概算は掲ぐるに由なし

年利

一五	一割二分
千圓未以上	二
千圓未以上	割三
千圓未以上	割三
五百圓未以上	割六分

日	別	一五	五	千	五	百	百
一	日	千圓未以上	千圓未以上	千圓未以上	千圓未以上	五百圓未以上	五百圓未以上
二	日	三七	三八	三八	三八	三八	三八
三	日	全	全	全	全	全	全
四	日	全	全	全	全	全	全
五	日	三八	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
六	日	全	全	全	全	全	全
七	日	全	全	全	全	全	全
八	日	全	全	全	全	全	全
九	日	三八	三八	三八	三八	三八	三八
十	日	全	全	全	全	全	全
十一	日	全	全	全	全	全	全
十二	日	全	全	全	全	全	全

二十五年は例年に比し賃銀は低落の姿なるも作事皆無と云ふ程に至らず可なり仕事あるにより手を空うして坐食するの景況に非ず今日に於ては糊口上概して貧況を見ず賃銀概況下の如し

日 雇 一 日	大 工 一 日	木 挽 一 日	左 官 一 日
三 十 錢	四 十 五 錢	六 十 錢	六 十 錢
龜田外三郡			
金 利	最 高	最 低	最 高
龜 田 郡	二 五 〇	一 五 〇	〇 四 〇
上 磯 郡	二 五 〇	二 〇 〇	〇 四 〇
茅 部 郡		二 〇 〇	〇 三 七
山 越 郡			〇 四 〇

金利は質屋營業のものに係る金融及流通資本は函館と密接の關係を有すと雖も當地は商業者最も少く殆んど農漁を以て生活するもの故に詳記する程のものなし

賃銀表

雇 工 一 日	農 作	漁 業	大 工	左 官	木 挽	日	
						男	女
龜 田	二 五 〇	三 〇 〇	四 〇 〇	四 〇 〇	四 〇 〇	二 五 〇	一 五 〇
飯 田	三 〇 〇	三 〇 〇	四 〇 〇	四 〇 〇	四 〇 〇	二 五 〇	一 五 〇
上 磯	一 〇 〇	一 五 〇	四 五 〇	五 〇 〇	四 〇 〇	二 三 〇	一 五 〇
森	二 五 〇	二 五 〇	四 〇 〇	五 〇 〇	三 五 〇	二 三 〇	一 八 〇
八 雲	二 五 〇	三 五 〇	四 五 〇	五 〇 〇	五 〇 〇	二 五 〇	一 五 〇

本表中甲と乙と其賃銀の差あるは雇主の賄に依て減し被雇主の自辨に依て増すものなり一般に甚しき困窮者を見ず租税納金等の滞納處分を受けざるもの多きは其困窮者なきを證するに足らんか増毛外五郡 此地方に於て金融のよきは例年七八兩月とす此の二ヶ月間は海産物の賣買盛に行はれ何れも囊中暖かなるか故に一般に氣受けよく隨て金利も二分五厘内外なり然れども右の期節を過ぎ冬期に至れば金融閉塞の姿にして金利も亦高く四分五厘位より降らず流通資本の高は増毛郡にて大畧貳拾七八万圓留前郡は貳拾万圓吉前郡は拾五万圓あらんと云ふ

當地方は漁業專要の地なるか故に労働者は春季漁業の際就れも漁業の月儲を爲し努力と鯨魚とを交換製造し販賣して以て一年間の衣食の幾分を補充せり今彼等の生活の方法を觀るに漁期の労働賃銀を以て不足を補填し且雜費に消費するもの、如し故に非常の凶漁にあらざる以上は生活上敢て困難の狀況なし其賃銀を擧ぐれば概ね左の如し

労働者種別

大 工 四拾五錢乃至五拾錢 左 官 七拾錢乃至七拾五錢
 木 挽 六錢乃至六錢五厘 屋根葺 拾貳錢五厘乃至拾三錢

諸 雇 賃 錢 表

備 考	日雇人足男	建具職	疊職	家根職	木挽	石工	左官	大工	農作日雇		業名	
									女	男		
本表は明治廿四年中札幌函館根室の三地中等一日の賃錢を示す農作日雇は函館に事實なきを以て其近傍龜田郡の賃錢を擧ぐ其符號線□は札幌▨は函館■は根室なり	二五	四五	四五	四〇	四五	六〇	四五	四五	二〇	二五	札幌	
	二八	四五	四五	四五	四〇	五五	四五	四〇	一七	二〇	函館	
	三五	五〇	五五	五五	五五	六三	六〇	五五	一八	三〇	根室	
												錢十六
												錢五十五
												錢十五
												錢五十四
												錢十四
												錢五十三
												錢十三
											錢五廿	
											錢十二	
											錢五十	
											錢十五	
											錢	
											錢	
											五	

日 備 三拾五錢乃至四拾錢

金融及賃銀

五百四十六

第十二編 上川離宮

離宮の計畫上川の地勢

明治二十二年十二月内閣總理大臣より左の達あり北海道廳をして離宮經營の準備に任せしむ北海道石狩國上川郡の内に於て他日一都府を立て離宮を設けらるゝに付夫々計畫施設すへしと元來上川の地は本道の中心に位し山河襟帶沃野十數里東は釧路南は十勝北は天鹽北見兩國に接し石狩、美英、忠別の三川は平野を貫流し頗る要害の地たり左れば已に屯田兵の配置一大隊あり鐵道亦空知太に達し北見道路は已に網走に達して西の方増毛に出つへく將來は四通五達の要地となるへし上川の清流は運輸に便なるのみならず夏は輕舸を浮へて暑を消し秋は車を停めて紅葉を賞すへく一朝宮殿竣工して聖駕北狩し玉ふとさは本道開拓の進歩に影響すること極めて大なるへし是に於て道廳は二十二三兩年引續きて委員を派出し調査せり

調査要項

先づ土地の廣狹便否如何(一)美英忠別兩川の水質分析(二)兩川に棲息せる魚類(三)林森中の禽獸(四)森林樹木の種類(五)道路及庭園地(六)半馬放牧場、農場及森林の區域(七)札幌及他の要地へ通する道程(八)上川市街と離宮地との距離及市街區畫(九)氣象觀測(十)經費豫算等の項目に就て設計を立てたる後遂に左の報告を出すに及へり

上川離宮造營豫定地は上川郡宇「ナエオサニ」を以て適當となす「ナエオサニ」の地たる「チユブベツ」「ビイエ」の兩川に挟まれたる一小丘にして高さ凡そ百十尺老樹鬱蒼其東北は絶壁にして「チユブベツ」川其前に横はる水最も清冽なり西南は傾斜緩慢にして眺望開闊東南は山巒漸く高きを加へ遂に御料地の域を踰え「ベツ」岳に達して止む其廣さ南北六里東西二里第一上川市街地を距る凡そ一里第二市街地を距る凡そ二十五町登りて下瞰すれば上川市街は「チユブベツ」川を隔て屯田兵屋は遠く圓中に隠現し石狩川は蜿蜒として銀蛇の如し「ナエオサニ」より第一第二市街聯絡線を距る凡そ半里其間道路既に成り極めて平坦堅牢にして木石を運搬するに毫も不便を感ずることなし今此地を卜して離宮を置き「チユブベツ」川を浚ひ以て細鱗を放ち西南の丘陵は荆棘をvariり以て御苑となし前面の樹林を洗伐せば風景一望の中に集り山水の明媚筆の盡す處にあらす又「ナエオサニ」を距る凡そ四里二十六町に當り一小山あり土人之を「ボンヌブリ」と稱す蓋し小山の義なり海面を抜くこと千二百尺之れに登れば遠くは十勝の平原近くは上川の曠野千山萬岳起伏の狀悉く眼眸に入り人をして神爽快を覺えしむ

「チユブベツ」川は水質最も善良なり「ビイエ」川は其上流に硫黄分を含める礦物あるを以て「チユブベツ」川に比し稍々劣れるもの、如し御料地内の溪間より發して「チユブベツ」川に注ぐ小流水質殊に清冽にして小魚を養ふに最も適せり「チユブベツ」「ビイエ」兩川水質分析の結果を記し併せて石狩川其他の水質を記す

水	名	清濁	濁有機物	亞硝酸	硫酸	酸暗母	尼亞格魯兒硬	度硫	酸
ビ	無色透明								
チユブベツ	痕跡	痕跡	痕跡	痕跡	痕跡	痕跡	痕跡	痕跡	痕跡
石狩	〇、一四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
測候所	〇、〇六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
監獄署	〇、一九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	全	全	全	全	全	全	全	全	全

「チユブベツ」川及び「ビイエ」川に沿ひたる低地は何れも水質善良にして且つ二十尺内外を掘鑿せば湧出つへし然れども「ナエオサニ」は「チユブベツ」「ビイエ」兩川の水面より凡そ百三十餘尺の高きに在れば容易に井を鑿ちて實驗する能はされども水質善良なるは他の實驗の徴して明瞭なり魚類は「チユブベツ」川に最も多し「ビイエ」川に稍少し鯉魚の如きは絶えて棲息せず其季節を逐ひて群集するものは鮒、鱒にして常に栖息するものは「イハナ」、鱒、鰍、鰻等なり又御料地内の細流にも多く集るを見る

獸は狐、狸、兎にして最も多く間々該野の南北隅に於て熊跡狼糞を認むることあれども人馬の往復日に頻繁なるに隨ひ其跡を絶つに至るへし又「ビイエ」「チユブベツ」兩川沿岸及「ナエオサニ」山腹に今尙は鹿麋判明なり是れ昔日此地に鹿の群居せしを想ひ見るべく今より其蕃殖を計らば舊に復するを得べき乎鳥は鶯、鷹、鷹、小鳥、啄木鳥、鶺鴒、山鳩、ヒヨ、ブンテウ、カツコウ、杜鵑等にし

て其他小鳥數十種名稱を詳にせざるものあり

樹木は其地質により各異なり種類に由り疎密同しからず今共重なるものを擧ぐれば左の如し

通名	漢名	通名	漢名
カツラ	桂	ホノノキ	浮爛羅勒
ヒキザクラ	辛夷	ニキヤウ	獼猴桃
シナノキ	菩提樹	シコロ	瓊木
ニガキ	黄棟樹	イヌツゲ	柞木
エリマキ	槭樹	ブドウ	野葡萄
モミヂ	槭樹	イタヤ(數種)	槭樹
エンジュ	槭樹	ヤマザクラ	山櫻樹
シウリ	刺楸樹	カバザクラ	
カタスギ		ヤチサクラ	
サビタ		オニセン	刺楸樹
スカセン		ツヂ	躑躅
ドスナラ	刺楸樹	ヤチダモ	榊
アラタモ	青月桂	ユヅリハ	交讓木
アカタモ	榊	オヒヤウ	榊
クワ	桑	クルミ	山胡桃
ガンビ	榊木	マカバ	榊木

ヤチバハンノキ	赤楊	ハンノキ	赤楊
アナダ	榊	カシワ	榊
ナラ	水楊	イシナラ	榊
カワラヤナギ	白楊	オホヤナギ	榊
ドロ		オンコ	榊
エゾマツ		トマツ	榊

第一第二上川市街聯絡道路中間より「ナエオサニ」離宮豫定地までの距離は凡六千三百尺「ボンヌブリ」は該豫定地を距る更に四里二十六町餘御苑地は離宮豫定地の西南に位し山勢緩慢にして眺望開濶なる處を以てす離宮御苑共に合して凡そ十萬坪なり

離宮豫定地三千百十六萬餘坪の内川沿地八百四十四萬餘坪を除きて三分の二を樹林地とし三分の一を雜草地とし東南の丘陵は所々に溪流あり水甚だ清く且萩、すゝき、かや、七葉、艾、秋冬、野豌豆等の野草到る處に多く繁茂し畜類を放牧するに適せり「ビイエ」「チエブベツ」兩川沿岸は凡八百餘萬坪にして地味最も肥沃且乾濕宜きを得て排水するを要せず加ふるに樹木稀疎なるを以て泰西の農具を用ひて馬耕するに適せり而して地味の肥沃なるは上川農作試験場の比にあらす

離宮豫定地より石狩國空知郡奈江村字「オタシナイ」迄車馬道十五里同所より鐵道にて札幌迄凡五十七哩札幌より後志國小樽郡小樽まで鐵道二十二哩奈江より岩見澤を経て室蘭迄鐵路凡八十三哩

上川より十勝國十勝郡十勝まで陸路凡四十五里北見國網走郡網走まで陸路六十里北見國紋館郡湧別まで凡四十五里なり

明治二十一年上川に測候所を置き爾來觀測に従事せしむ但「ナエオサニ」は上川測候所を距る凡一里且同所より凡百五十餘尺の高さにあるを以て氣壓風力等隨て差違あるへしと雖も亦以て參考に供するに足るへし

附屬御苑は差向き宮殿設置の周圍凡十萬坪を開墾し雜樹を間伐し花卉を栽ち修飾を加へ道路を縦横に通ずるものとし大略費用金一万三千三百三十圓を要す即ち左の如し但御料地は地質乾濕其當を得排水工事を要するもの極めて稀なり

一金一万三千三百三十八圓 内譯金一千圓御苑伐木開墾等の費、金六千七百九十八圓市街聯絡道路開墾、金二千圓御苑内車道築造、金三千二百四十圓宮殿設置地より馬道開墾、金一百圓同上馬道架橋費なり

第十三編 千島探検

占守島及近海列島の概況

北海道の北海道窮北千里外の絶島として久しく國民より委棄せられたる千島列島は報効義會の雄圖郡司大尉の遠征によりて是より愈々開拓の端を開き世人をして始めて帝國版圖内に此の列島あるを知らしむるに至らんとす大尉一行の調査によりて全島の報告に接すると近きに在るへしと雖も今十分信憑すへき最近報告を得たるを以て其要領を摘記し我が官民をして愈々此の一擧の決して冒險的企圖に止らず實に殖産興利の一大急務たることを知らしめんと欲す千島國は得撫、新知、占守、國後、色丹、紗那、振別、擇捉、藥取の九郡より成りて面積千三十三方里餘幾んど四國と面積を等くす而して大小列島三十二は恰も尾を曳きたるか如くに散布せり其得撫以東の諸島はチリボイ、フラット、チュルポイフ、プロトンの三島より東北に走りて終に占守島に達するの順序なれども占守島は目下最も世人の注目せる所となりたるを以て先づ此の最北端の絶島より記述すへし
占守島は幌筵島を距ること東凡そ一海里半此間を千島小海峡と云ふ是より露國領勘察加ベートルホールスキ港まで凡そ百九十海里長さは東北より南西に亘り十五海里あり巾は十一海里周圍は五十海里あり地勢丘陵多く其東北端は勘察加と相對し其間八海里に過ぎすと云ふヘットー川は巾十二間水源に細長き湖あり巾一町長さ七丁餘其他數多の細流あり諸川皆清水にして飲料に適すモ

ヨロツプ灣は半月形をなす灣の左右岬角に引續き暗礁あるも其中央數町の間深さ四尋より十二尋にして前は幌廷島に對し大船を泊するに宜しオットマイ港に次ぎたる良港なり最も東南風に可なり西北風の時は幌廷島オットマイ灣に避るを常とす其距離三海里に過ぎず此島の丘陵に草木多し木は皆矮樹にして風の強きか爲め直立すると能はず北より南に向て偃臥す高さ五尺餘に過ぎず其種類は樺、五葉松、楊、ミユニ、等にして薪材となすに十分なり草は種類多し就中食料となるべきものは百合、ボクサ、三葉、コヂヤク等なり海陸産物は幌廷と同一なり「ベツトフ」には舊土人の居住せし跡あり此住民は目今色丹郡に徙ざる其色丹移住以前は同地を以て本住と定めしも四時水陸の鳥獸を逐て郡島を跋渉し以て生計を營む故に郡島中に偃居を構へ居れり彼等は皆穴居にして其構造に用ゆる木材は巨大なる流木を用ゐたるか如し又露國商人の家及び希臘教寺院の跡あり此近傍にて紅蘿蔔、甘藍、馬鈴薯、等の類を耕作せしことあり且つ牛を牧畜したることありと傳ふ本島の氣候は七月五日より八月三日迄最低華氏四十四度最高は七十六度半にして平均凡そ五十五度半なり西北風の吹く時は晴天多く東南風の時は海霧又は降雨あり都て此近傍は根室地方に比し海霧稍や薄きか如し雪は七月中谷間に之を見るのみ本島は融雪期早くして幌廷は遅し是れ高山あるか爲めならんか八月下旬占守島に雪なきも幌廷は殘雪の尙谷間に存するを見たり

幌廷島は温爾古丹島の北東を去ること凡そ二十三海里島の形東北二分一北より南西二分の一南に

更り長さ凡そ六十海里巾は廣き處十八海里狭き所は十二海里周圍凡そ百七十海里面積凡そ千五百平方里地勢起伏して高山大川多しシリヤシ山尤も高くアシリマツキ山は稍や低く噴火山にして硫黄を産す其他山岳多し南西端にベートンシペーホットの兩湖あり共に周圍五十丁餘中に多く紅鱒を産す島の東岸にトルキー川あり巾凡う二十七間紅鱒多しトルキー川の近傍は廣き平原にして楊柳繁茂し野草叢生すベートン湖近傍も亦た稍や平原にして野草繁生す木は樺、マンコ、五葉松等にして皆南より北に偃臥せり樺の大なるものは二尺回りにして長さ三間位のものあり赤狐多し熊は眞黒色、帯褐色のもの群居せり鷲鷹の類亦た頗る多し稀に狼を見る臘虎はカバリウ岬沿岸に多し魚類は紅鱒、本鱒、鮭、櫻鱒、鯡、鯉、カマス、鱒、カシカ、鯨等川にはオシロコマ魚多し船舶の碇泊する所はオットマイ灣なり此灣は東經五十度二十七分二十七秒北緯百五十六度一分十三秒根室を去る直經凡そ六百四十四海里弧形をなし深さ四尋より十五尋に至る灣口前面東方は近く占守島に對立し南方は屹立せる一小山を以て岬をなし北方は高岳を以て繞らし西は原野廣し西方の高山に硫黄を産し西風ある毎に硫氣鼻を衝く海底は砂又は小石なり此灣に注ぐ川二筋あり水源は群峯より發す北方の川は清潔にして飲料に供すべく南方の川は硫氣を含むを以て飲むべからず本島は千島諸島中樺提島に次ぎたる大島なり海陸物産多く且つオットマイ灣の良港あり將來尤も望を屬すべき所なり

鳥島は幌筵島の北東端より凡そ十五海里數個の島嶼散在せるものにして各島皆鴨の巢窟なり水豹最も多く臘虎亦た棲息すアライド島は幌筵島の北凡そ二十二海里にあり長さ七海里半巾六海里高山島の中央に屹立し高く雲表に聳ゆる山上の雪は終年消えざるか如し樹木は短小にして野草茂生す飲料水あり赤狐群居し海狗水豹少なからずアボスル島はオンネコタン島を去る凡そ二十海里西方にあり島形尖錐の直立せるか如し又遠く之を望めば舟の走るに似たり故に別に帆掛島と云ふ鴨及海狗群を爲す臘虎は少しマカラン島は東西七海里南北五海里全島皆巖々たる高岳にして東端僅に平地を見る草木矮小にして水に乏し臘虎頗る多く水豹又少なからずシリッキ島は長さ三海里巾一海里半高山の海中に兀立するものと云ふ木及水なし沿岸岩石多く鴨及海狗の類群居すオンネコタン島は南北二十二海里半巾廣き所十海里狭きは六海里なり群峰屏立し其中央に高山ありハンガシリ山と云ふ嶺上常に白煙を噴出し硫黄を産すチエボンベツ川は巾凡そ四尋ラシヨロコマ魚多く鮮少なしラシコタマイに土人舍四戸ありメンダリに土人舍若干あり共に土人の出獵止宿所なり赤狐及臘ノ多虎海狗水豹は少なし

ハルムコタン島は長さ東西十海里南北六海里ハルムコタン山古昔は噴火山なりし又ホンノボリ山は稍低し山上に樺の疎林ありカビユラドム、ペードストの兩小沼あり魚類なしペードスト沼の近傍は原野にして野草茂生す水豹多く赤狐海狗は少しハルターノット沖合には臘虎多し知林古丹

鳥は南北三海里東西一海里半峭立して断崖削るか如し全体岩石にして水及木なし沿岸海狗多く臘虎海豹は左なしイガルマ島は長巾共四海里なりイカルマ山あり臘虎少し鴨及海狗海豹の類は多し捨子古丹島は半知島を去る東北四分一東凡そ十一海里にあり南北凡そ十四海里東西廣き所は七海里狭き所は四海里に過ぎすエグリヘシ、コトリメンタリー兩山は共に硫黄山にして噴火常に絶えず硫黄を産すること千島第一とすコドリメンタリー坑より海岸迄一海里エグリベミ坑よりは二海里なり山麓には樹木あるも矮樹にして五葉松多し島中央に小河あり飲水に充分なりモイスートには土人舍七戸の古跡あり此邊には五葉松繁茂す又た此近傍船舶碇泊することあり赤狐あり又タルボモイ及ホーホノチ近岸には臘虎多し半知島は小嶼の合稱にして各島丘陵あり野草繁生し河流及樹木なし海狗水豹多く臘虎少し雷公計島は松輪島より東北凡そ六哩東西凡そ四海里南北凡そ三海里四周險阻にして頂上常に硫煙を噴出す之をラツコケ山と云ふ樹木なく野草茂生す陸獸を産せず周囲の礫岩に海狗及ヲットセ群集し臘虎少しく棲めり羅處和島より東北凡そ十七海里半の所に松輪島あり南北凡そ七海里東西凡そ五海里中央に噴火山あり恰も富士山の如し絶頂常に硫氣を噴く之をマタヲ山と云ふ硫黄を産す南は稍や低く土人獵場の舊跡あり該山及近傍には樺の小樹茂生し野草も亦繁生せり北岸コンブモイ近傍には昆布繁生す陸には赤狐多く海狗水豹多しベヌボ川は小流なりと雖も清潔飲料に供すへし此近傍は稍や平原なり港灣をヲコタラニーと云ふ風帆船の時に

碇泊する所なり蓋し飲水を求むるか爲めなり

羅處和島は須禮吐寧皮島より東北凡そ六海里長さ七海里巾六海里北端は高岸にして南に向ひ峻夷す煙氣噴出して硫黄を産す本島は色丹土人の占守島移住以前居住せし地なり南端より西側一海里餘オレシチブイに九戸の土人舎齋跡ありポロチャヤノポリ山は硫黄山にして白煙常に絶えず其他ボンノポリ山あり高からず山麓に材木繁茂す其種類はオンコ、カンビ、五葉松等なり野草亦た茂生すチャーラスベツトエバラコツレの兩川あり共にヲシヨロマス魚少しく産すモノモスモイの近傍に刺草茂生す此刺草は藤麻の類にして昔は土人之を取り糸に造り網を修理せしと云ふ飲料水は多量にして佳良なり陸に黒斑斑狐頗る多く臘虎海狗水豹は南北兩端水冠り磯邊に住す東側絶壁斷崖の處に鴨鵝の類多く群集す南岸中央に帆走船を碇泊するに便なる所あり獵船などはこゝに碇泊し薪材を採ることあり

計吐夷島より北東十二哩半に宇志知島あり南北二島に別れ其兩間は四五丁にして干潮の節は波止塙を築けるか如く一帶岩礁を露出せり碇泊は此近傍にして深さ七八尋より十二尋の間なり海底は砂地なり南島は長さ凡そ二海里巾一海里半尖立せる高岸にして周圍峻峻なり樹木なく野草繁生す水乏し其東南側に圓形の一小港あり港内深淵なり東側に熱湯湧出せり其近傍硫黄を産するも少量なり港口は淺く危険の暗礁あり短艇の轉覆して屢危険に遇ふことあり全島鴨の群集する所にして産卵の季節は手捕することを得へし舊土人等此島に出張して之を獵し此島の皮を剥き糺さ合して衣料に供せしと云ふ陸に獸類なく東海岸に海豹多し北島は東西凡そ二海里巾一海里に足らず峻岸にして樹木なし只野草の蔓生するのみ此島も亦た鴨群集す南北兩島の間は數多の小磯あるを以て臘虎水豹を産する所多し

新知島より北々東凡そ十五哩の處に計吐夷島あり高山三ツに分れ其他小山數多にして全島地勢起伏し平原なし延長凡そ七海里巾一海里に過ぎずペーレーター川あり巾二間許り魚類棲息せず流水不良なり樹木は樺のみにして矮少なり野草茂生す陸に黒斑斑狐赤狐共に群棲す海狗少し鱉は時に來る臘虎少なし

新知島は延長凡そ三十海里半南端及中央に高山あり其間恰も凹字形をなすトウイドク山トフゴム山共に高し五葉松、樺、熊笹、繁茂し平原の地には野草茂生す島の北端にプロトン灣あり内廣く且つ深く深さ十七八尋より五十尋までなり又口極めて狭く且つ淺く一二尋なり短艇に非れば出入し難し港内南方に土人穴居の跡あり砂濱にして上陸に便なり此灣口を開鑿すれば千島第一の良港となるへし陸には狐棲息し海には海豹、海狗、臘虎を産すチリポイ、フラットチエルポイフ、プロトンの三島は得撫島の東北に當り其最北に位するものをプロトン島と云ふ此島は峻峻にして南方に向ひ傾斜し其盡くる處に數岩あり多く海馬を産す上陸し得へきは島中唯此一所あるのみ

得撫島は北東及南西に蜿蜒せる大島なり長さ凡そ五十八海里最も廣き所は凡そ十五海里島の南西角及北東角は低くして鋭角を爲せり其北東角より北東に延伸せる一帯の岩脉あり數小島をなす五高山あり醜山、白旗山、雪光山、今堀山、海面山と云ふ就中島の中央に位する雪光山最も高し天氣清朗の時は凡そ五十海里を隔て、之を望むへし川流亦た多しと雖も皆小流なり就中床丹川及創成川最も大なり島の西部に一湖ありトコタン湖と云ふ周圍凡そ一里餘紅鱒を産す港灣數所あり碇泊に便なるは東部に於て小舟灣創成灣にして西部には穴間、乙今萌、床丹等あり小舟灣に瀕し一條の溪水環流して注ぐ所にアレット人種の住せし舊部落あわ本島交換の際同人類は魯國に引上げ目下唯に齋跡を存するのみ此島は山岳丘陵相半し草木多く土地稍膏腴なり黒菜、眞珠菜、裙帶菜、鹿角菜、石花菜、海草及款冬、ホクサ、ユリ等の陸草ランコ、構、躑躅、楊柳、玫瑰、五葉松等の樹木亦た魚類紅鱒、本鱒、アブラコ、カジカ、フシヨロコマ、獸類は狐、海狗、海豹、臘虎等あり

郡役所及戸長役場

紗那、振別、擇捉、藥取郡役所は全島四郡を管轄す其經費は四千七百圓餘郡長一人書記三人雇四人戸長役場二ヶ所戸長二人筆生二人あり然るに擇捉島は周圍二百六十里にして其區域頗る廣く且つ八百千三百餘を有し今後愈々増加の有様なれば斯る政廳の組織と經費を以て島務を取扱ふこと誠に困難なるへし故に漸然改革して郡衙の管轄區域を廣め爾後色丹二郡を除き得撫新知古守三郡と

待たす

合併し之を總括すへき島司を置き大に施政の法を改め以て事務を擴張せざるへからざるは多言を

郡村別人口出入表

(明治廿四年十二月卅一日調)

郡名	出					入				
	外國行	他府縣	他郡區	他町村	陸軍在營者及囚人	他府縣	他郡區	他町村	計	
紗那村	五	〇	〇	〇	〇	一九二	一一一	四	三〇七	
有筋村	〇	〇	〇	〇	〇	六三	四六	〇	一一九	
別飛村	〇	〇	〇	〇	〇	二〇七	七三	六	二八六	
留別村	一六	一四	一四	四	〇	二七	三三	六	一三三	
振別村	六	四七	一	〇	一	七	三	三	一三	
老門村	〇	〇	〇	〇	〇	二	二	〇	四	
内保村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
丹根村	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
藥取村	〇	九	五	〇	〇	二四	〇	〇	二九	
乙今村	〇	〇	〇	〇	〇	二	〇	〇	二	
計	二六	九六	一九	四	一四八	六六三	二七一	一九	九五三	

郡村別戸口表

(明治廿四年十二月卅一日調)

郡	村	男		女		人計	現在戸數
		本	籍	本	籍		
紗那	有那	八七	〇	九七	〇	一八四	一一四
	別飛	一〇〇	〇	一〇〇	〇	二〇〇	一一七
振別	留別	六〇〇	〇	五六八	〇	一一六	〇
	別別	三三三	〇	四〇〇	〇	七三	〇
振老	振保	一九	〇	一八	〇	三七	〇
	門別	四二	〇	三六	〇	七八	〇
擇丹	丹根	四〇	〇	三〇	〇	七〇	〇
	内保	四四	〇	三五	〇	七八	〇
振藥	振取	六	〇	六	〇	一二	九
	乙今丑						

殖民地

擇振は地質肥沃にして殖民に適すへき土地多し丹根筋より歴足別に連り東岸得茂別に出るの間に適當の土地あり内保山林中にも丘陵十餘里に亘るものあり振別原は周圍十二三里西南振別老門より單冠山麓に亘り東岸單冠灣に入り西北に折れて紗那界に連り瀝斗呂岬に至て盡く留別原は周圍三四里留別より羅臼に亘り振別原に連る又丘陵の綿亘するものは留別原の東北奔登の麓下より恩根發足に出て年節に至るの間なり周圍殆んど六七里あり有筋原は周圍二里半有筋より東北紗那に

連る紗那原は周圍凡そ二里紗那より東北内岡に亘る又紗那原より東北崖拉岳麓に沿ふて別飛に出るの間丘陵凡そ二十里は別飛山林のある地なり保呂志原は周圍十二三里東北藥取郡當路より東岸年留別に亘り西北に折れ更に磯谷登の麓に沿ふて別飛山林に接す又乙今丑より幕與舞に至る間周回里餘の平原二ヶ所あり其平原は皆雜草繁茂し地勢起伏して樹木密林をなす若し丘陵を開墾して農作物を播種し平原を柵圍して牛馬を放牧し陸産海産同く人力を用ゆれば人烟密接牛馬の聲絶えず舟車輻輳するに至るへきなり本島の如きは北緯四十五度にして中和帯に位し氣候温暖なるは勿論なれども只北海上に孤立せる一小島なるを以て環海の風力強きのみ又本島の地質は極めて鬆にして上層は多量の有機分を含み暗紅色を帯ひ土壤佳良にして最も耕牧に適す水質は浮游物多量有機分少量其他鉄、石灰、硫酸等の礦物を含みたるもの多し

港灣

本島に於て將來開くへき港灣は唯單冠、斜高部具志茂呂の三あるのみ單冠灣は島の中央に位して南に向ひ東西一里餘南北二里餘第一の大灣なり其陸地は振別紗那兩郡に跨り遠く振別原留別原に接したる大原野なり東岸は七八月頃瘴霧起れども九月より五六月頃までは天晴れ海穏なれば航海危険ならず函館根室より單冠灣に直航すれば西海岸に出つへし故に單冠灣は本島四邊の良地にして海運陸輸頗る便なり斯く航路を東岸に開かんには先づ灣内に大波止場を築き留別紗那に通ずる

馬車道を鑿たさるへからず是れ開港後の一事業なり斜万部具志は西岸紗那郡にあり方位南東に向ひ西北風を防ぐに宜し深さ四丈頗る良灣なり然れども該灣は崖拉山麓に開きたる一小灣なるを以て僅に船艦數艘を泊するに足るのみ且つ土地狭小にして坂路曲折甚だ困難なり元來留別紗那兩灣は人烟繁盛なれども弦形甚だ大に方位西北に向ふを以て一旦風波起るあらは船艦を碇泊する能はず唯斜万部具志灣に泊して風浪の難を避くるを例とす故に今日の勢土地の狭小に拘らず斜万部具志灣を開き紗那留別に通するの大道を修め運輸の便を起さるへからず茂余呂灣は北東岸に在り方位東に向ひ弦形頗る佳良にして西北風を防ぐに宜し藥取港は東北極にありて人烟稍繁盛なれども弦形甚だ悪し若し風浪の難起らば船艦皆茂余呂灣に避く故に藥取港の出入頻劇なるに至れば必ず茂余呂港を築き運輸の道を起さるへからず函根根室より茂余呂灣に直航すれば東岸は平穩にして且つ近きもの、如し右の三港は將來開拓に着手すると同時に必ず之を開鑿せさるへからざるものなり

森林

擇捉の山林は別飛内保其他老門留別紗那等の小樹林あるのみ其樹木は椴、蝦夷松、落葉松、檜、樺、櫻、楓、珙瑀樹、等なり同島は温帯中にあり氣候温和地味肥饒にして草根木葉の繁盛するは勿論なれども島嶼狭小にして東西に短く南北に長きと以て深山なく沿岸一帯概ね蒼苔を見る但し振別紗

那兩郡は島の中腹に位し幅員は本島中最も廣き所なり内保別飛等の如きは樹木蒼鬱として密林をなす故彼家屋材の如きは皆内保山林より伐採して之を留別紗那藥取其他各村に輸送す薪炭材は島内到的所に之あれども丹根煎藥取地方は樹林に乏し

漁業

擇捉郡にて内保、紗那郡にて留別、有筋、別飛、振別郡にて振別藥取郡にて藥取、當路の村には最も多く鮭鱒を産す又紅鱒は擇捉郡得茂別沼、藥取郡當路沼、紗那郡年筋湖に産す鯡は全島海岸悉く産せざる處なしと雖も漁獲極めて僅少なり鱒も亦産せざるの處なきも其の漁業未だ盛ならざるを以て漁獲甚だ多からず昆布は擇捉郡の沿海に多く産すれども採取するものなし其他紗那郡沿海に若生多くあれども亦た之を採取するものなし雨鱒、櫻鱒、鰯、鯉、油子、大鯿、鰈、オシヨロコマ、イツナ、章魚、金槍魚より海鼠、フレツ、ホヤ、海老、蟹、海扇、海膽、及ひ布苔海苔裙帶草等に至るまで全島大抵産せざる處なし漁場は西海岸に空地なきも猶良好なる鱒場數十ヶ所鮭場六七ヶ所鱒場十四五ヶ所あり東海岸には得茂別年筋別等に開場しあれども未だ盛ならず鱒は十七八ヶ所鮭は七八ヶ所昆布は數十ヶ所の良好なる空知漁場あり鱒は東西海岸に多く昆布は東海岸に多きを以て今後沖漁を盛んにし併せて鱒、鯡等を漁するときは漁獲舊に倍し漁事益々隆盛に至らん又昆布布苔等を盛に輸出せば本島の探礦業も漁事と共に進歩すへし

農 業

擇提島には耕作專業の農夫なし其の收穫は唯馬鈴薯野菜類に限れり故に作付反別も僅に十一町四反七畝六歩あるのみ本島は氣候溫和土地肥饒なるを以て土地を開墾して盛に農業を起し得へきも島民皆漁業に従事するを以て餘力を農業に用ゆるを得ず且つ人民は概ね本島暴風多く耕作物を播種するも到底十分の收穫なしと空想し居るを以て農業の起らざるは無理ならず

鑛 山

擇提郡丹根前村に歷足別山あり硫烟常に烈しく噴出す硫脉甚だ廣からざるも其質最も佳良なり明治十三年七月始めて試掘に着手す礦夫三十名執業日數百三十三日にして硫黄七百八十石を採掘せり山麓より五十一丁の間坂路曲折小車を以て之を運搬するに一往返に止まれり斯く不便にして収支相償はざるより終に廢業せり座拉山は紗那郡紗那村の北方にあり本島第二の高山にして山頂三分し中間の山嶺は硫黄の爲めに破裂して稍低く燒山たり明治十一年試掘に着手したれども現今廢業す其他留別山刺牛登は亦硫黄質の山なるを以て常に白煙を噴く昔時高田屋嘉兵衛試掘に着手したれども運搬不便なるを以て遂に廢業せり硫黄山は茂與呂の一脉にして藥取郡の東隅にあり山腹常に硫烟を噴けり明治十二年初めて試掘せりと雖も運搬不便にして廢業す十六年二月十二日藥取郡の東方に凡と三里茂與呂灣を距る二十丁許りなる宇苦男瀬登の半腹と藥取川水源の湖水の間よ

り廣袤里餘に亘れり其礦物は鉄質なり

動物

熊は金毛又は黒白色にして全島中産せざる處なし又河瀬及赤毛三毛黒毛の貂あり海馬は藥取郡年
 良利島に多く産す海豹は東海岸に多し臘虎も稀に東海岸に来るとあり貂は全島中産すれども藥取
 郡常路に産するものを以て第一とす鯨は擇捉郡内保灣に時を限りて群集す鷹、鴨、鵝、兎等は全島中
 産せざる所なし獵法獵具は皆砲銃又はアマツボを用ゆるのみ今廿三年中の鳥獸獵獲數並に價格
 を開くに海馬は廿四頭代價金廿七圓熊は六十五頭代價金四百八十七圓五十錢にして平均一頭七圓
 五十錢河瀬は六十一頭代價金百五十二圓五十錢にして平均一頭二圓五十錢狐は六十五頭代價金七
 十七圓五十錢平均一頭一圓廿五錢貂は廿二頭代價金六圓五十錢平均一頭七十五錢海狗五十二頭代
 價金七十八圓平均一頭一圓五十錢鷲三百七十頭代價金三百七十七圓五十錢平均一羽一圓廿五錢鯨
 は獵具獵法なきを以て只死体の海岸に漂ひ來るを待ちて捕ふるのみ鴨鵝等の獵獲亦無數なり

植物

落葉松土言グイは本島海岸及び山中高燥の地に生す喬木にして高十餘丈圍七八尺に及ぶ其材家屋
 船及び諸器に供すへし蝦夷松土言ニクは深山高燥の地に生す亦喬木にして高十餘丈圍六七尺に
 及ぶ材質白色にして中心淡褐色を帯ひ肌理緻密なり乾濕に遇ふて伸縮せず家屋及び船桶の用とな
 すへし椴土言フツフは山野高燥の地に生す山腹に在るものは最も大なり其大なるものは高十餘丈
 圍七八尺に及ぶ材質白色柔軟肌理疏鬆なり家屋器材に供す五鬆松土言チカフフは多く高山に生す
 大樹なし材は板及障子又は造船内張用となすへし樺方言ガンビは山野に生す喬木高六七丈樹皮
 横理にして粉白色脂を含む土人炬火の料となす材は箱、樽、桶等其他諸用に供すドロ方言ヤイニは
 高六七丈に達し濕地を好みて河岸陸地に生す材質は白色にして柔軟なり箱及燧木用に供す珙瑤樹
 一名アラ、キ方言オンコは山野に生す樹木長大のものなし木理緻密にして其色代赭の如し土人之を
 弓材とす鉛筆の材及櫛等の料に供すへし櫻は山中に生して大木を成さず六月上旬花開く秋に至て
 實熟す鹽藏にして食ふ其材は漁艇車樞及び櫓等に作る玫瑰ハマナシ土言マウニ又マウチクニは海
 邊沙地に生す高二三尺春花開き秋實熟す土人實を食ふ櫓土言トニーク、山腹又は平坦の地に生
 す高凡そ五六丈材は薪炭又は樽桶等に用ふへし柳土言シユシユ多く河岸に生す大材少し高さもの
 は二三丈肌理密にして柔軟なり粗板及曲物器具等に用ふへし土人杖を削て花形をなし諸神に供す
 之をイナヲと云ふ楓土言ドベニー山野及高燥の地に生す木質白色密理甚堅からず變め易し土人
 以て小刀等の鞘を作る接骨木方言コブノキ山野叢林中に生す八月實を結ぶ赤黄二種あり天然生の
 草根には草烏頭トリカブト方言フシ山中に生す莖高五六尺二種あり一種は即ちハナカツラにして
 濕地に生し莖弱く花淡紫なり他の一種は細葉烏頭土人のボンシユルクにして花は總狀をなして密

着す土人其根汁を製して燻に塗り以て熊を射倒す并、土言オは溪間及沼澤井に生す土人之を食ふ
 欸冬土言コルコニは山足溪澗陰濕の地に生す長さものは七八尺圍六七寸葉經四五尺土人莖葉を生
 食し又は炙り又は漬け夏秋過半の食料となす但乾燥の地に生するものは葉莖共に短小なり又土言
 ノヤは多く原野に生す高丈餘に至るものあり桔梗土言ムケカシ若葱ヤウシヤニンニク方言アイ
 バカマ又キトビル土言ブリシヤ山野陰地に生す六七月花開く土人根を搗き餅となし貯ふ又葉は乾
 して羹となす根は最も臭氣あるを以て土人服して寒濕を防ぐ鹹土言フルニベ山野陽地に生す質柔
 軟なり薇ゼンマイ落葉松耳土言エブリは落葉松及蝦夷松に生す其形塊をなし朽木の如くにして灰
 色あり腹痛眼病を治するに効驗あるを以て土人皆之を服す柳鞆柳の根に生すフウレンツブ山野に生
 す色赤く味酸し土人喜んで食ふ木賊土言ヤビヤビ山野叢林中に生す百合クロユリ土言アンライル
 ヌハル原野濕地に生す土人根塊を食料に充つ延胡索方言ケコモ土言トマ陰林に生す四五月花開く
 土人根塊を採て食料に供す又耕作物には馬鈴薯、蘿蔔、蕪菁、葱、芥、菜、紫蘇、唐菜、午房、胡蘿蔔等
 の諸種あり海草には昆布土言シカチ裙帶菜、鹿角菜、紫菜、海帶等の諸種あり本島樹林地には家工
 及諸器具材又は薪炭用に供すべきの樹木多しと雖も元來島嶼狭小にして深山山林なく暴風多きを
 以て成長至て遅鈍なれば務めて其培植を圖り濫伐を禁すへし

第十四編 交通運輸

札幌郵便電信局

郵便電信及爲替貯金一覽表(札幌郵便電信局所管)

(明治廿五年十一月別)

種目	年次	郵便電信收入	
		廿三年	廿四年
切手代	八四、〇七三	八三〇	一一二、三四三
封皮代	三六	九三八	七四
葉書代	七、〇八八	二二〇	一〇、七五七
私書代	九	三〇〇	一八
約東郵便料	八、二一一	八九五	七、二六二
海外電報料	四八三	四八〇	一三九
電信修繕料	四	〇〇六	〇
局位置局長名局員數	六五	四	一
郵便受取所	三	六	一
郵便貯金預所	〇	一	一
切手賣下所	一	一	一

計	比較	增	減	九九、九〇七	一三〇、五九六	八六三
				〇	三〇、六八九	一九四

年次	種別	郵便物			計	比較増減
		集	配	信		
二十二年	電報	五四三、三三二	四八八、四二七	一、〇三一、六四八	〇	
二十三年	電報	七七七、七一六	六八九、六七五	一、四六七、三九一		四三五、七四三
二十四年	電報	一、〇五二、五七五	九四三、〇四〇	一、九九五、六一五		五二八、二二四
廿二年	發信	三二、〇一七	二八、七一七	八四、五九九	一四四、三三三	〇
廿三年	發信	四八、七七八	四六、〇九五	一一五、一八九	二一〇、〇六二	六五、七二九
廿四年	發信	五二、七二七	四九、〇八三	一五八、三七八	二六〇、一八八	五〇、二二六
二十二年	振	九三、四四四	六六六	九、八九七	六五、九五〇	五八六
二十三年	振	一一二、二六六	九五九	一三、〇六五	一一四、三一四	六五五
二十四年	振	一七三、六八五	四七六	一九、二五二	一八三、五一五	五三三
二十二年	出	一八、八二二	二九三	三、一六八	四八、三六四	〇六九
二十三年	出	六一、四一八	五一七	六、一八七	六九、二〇〇	八七八
二十四年	出					一三、一八八
二十二年	金拂					二、一六四
二十三年	金拂					四、八六八
二十四年	金拂					

貯金 △印、朱券

年次	種別	預		拂		度	度	度
		金	高	金	高			
二十二年	預	二〇、六三三	二五三	一七、〇八四	五〇五			五二九
二十三年	預	一五、六一五	三〇八	二七、九六六	二六四			六四七
二十四年	預	一九、九八〇	三一四	二三、五八〇	七六二			八八二
二十二年	拂	五、〇一七	九四五	一〇、八八一	七五九			一一八
二十三年	拂	四、三六五	〇〇六	△一九一	四、三八五			二三五
二十四年	拂							

備考位置は札幌區大通西二丁目なるも本年四月局舎焼失に付假に本表の場所に設く局員數郵便受取所郵便貯金預所郵便切手賣下所及び郵便函數は本年十月末日現在を掲ぐ

郵便電信局郵便局及局長局員表 (札幌郵便電信局所管)

國名	局名	局位	置	局長住所姓名	局員數	取郵便受	郵便切手賣下所	柱	函	掛	函	計
小樽	小樽郡小樽港町三番地	小樽郡小樽港町三番地	平民船樹忠郎	八	四	一三	一二	五	一七			

交通運輸

後		志		膽		振										
錢函	鹽谷	忍路	仁木	神惠內	泊村	古平	野塚	岩內	余市	苦小牧	室蘭港	元室蘭	此田	幌刑	白老	千歲
小樽郡錢函村四十番地	鹽谷村百三拾七番地	忍路村四十番地	仁木村五十四番地	神惠村番外地	泊村三十七番地	古平港町	野塚村	御鉢内町字高台五十三番地	余市港町七番地	苦小牧村	室蘭港札幌通百三番地	元室蘭村四十三番地	此田村六十八番地	幌刑村百十六番地	白老村十一番地	千歲村廿五番地
全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全所五十四番地平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全所四十五番地主族	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民
白濱園松	吉野民二郎	大塙庄兵衛	森傳次郎	大崎龜吉	網島市平	關口利勝	入野村五番地留新海縣平民士田定一	粟淵真精	青木伊三郎	古田財一	永井次郎	高橋徳兵衛	關根欣十郎	日野文橘	野口又藏	新保銀藏
一	一	一	二	二	一	二	一	四	四	三	三	一	一	一	一	一
一	一	一	三	三	一	一	一	一	一	二	五	二	二	二	二	二
一	一	一	三	三	三	三	二	二	二	二	七	二	二	二	二	二
一	四	一	三	三	三	三	二	二	二	二	七	二	二	二	二	二

五百七十四

石		狩											
市來知	當別	石狩	厚田	江別	岩見澤	濱益	茨戸太	月形	瀧川	由仁	歌志內	永山	登川
市來知村本町東一丁目十番地	當別村五十六番地	石狩親船町北一番地	厚田村四十二番地	江別村一番地第一號	岩見澤村南六番地第三號	濱生村二番地	篠路村字茨戸太九十七番地	月形村綠町五十五番地	瀧川村番外地木通四丁目四番地	由仁村番外地	歌志内廿四號地	永山村番外地南側第十二號	登川村第二十四號地
全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	
野村徳太郎	濱田利勝	岡田安宅	鈴木繁次郎	松本祐之	淺海致之助	本間豊七	山崎幾太郎	大井啓太	杉本勇治	古川浩平	田沼徳太郎	勝見貞助	高島關三
一	一	一	二	二	一	二	二	二	二	二	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七

交通運輸

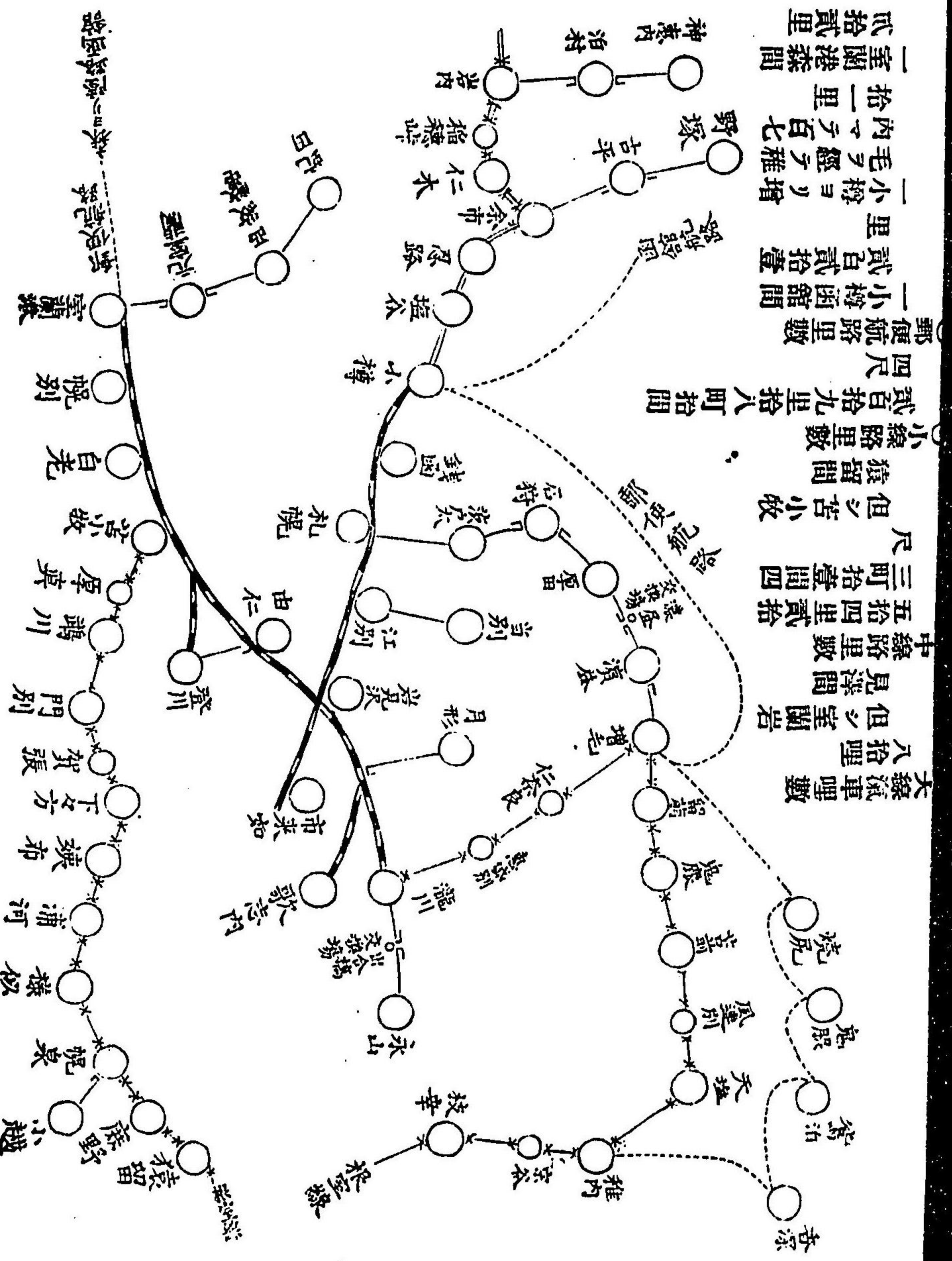
五百七十五

種	鹽		天		高		日							
	鬼鹿	留筋	增毛	苦前	燒尻	天鹽	小越	猴留	下々方	庶野	幌泉	姨布	門別	浦河
種內	鬼鹿村百八番地	留筋村四十五番地	增毛村三十二番地	苦前村十一番地	燒尻村中央四十四番地	天鹽村四番地	小越村番外地	留筋村十一番地	下々方村三番地	庶野村二十八番地	幌泉村八十四番地	姨布村二番地	門別村九番地	浦河中央廿五番地
	全上士族	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民	全上平民
	多田猶五郎	熊谷直吉	住吉爲右衛門	山本仁三郎	岸田庫吉	松岡留吉	眞藤東一郎	三上兼太郎	曾根琴一	長岡正兵衛	幸野市兵衛	熊谷藤十郎	石川仁兵衛	佐留太河十三番地
	一	一	六	三	三	三	一	一	二	二	二	一	一	二
	一	一	五	四	二	一	一	一	二	二	二	一	一	二
	一	一	五	四	二	一	一	一	二	二	二	一	一	二

經費 (札幌監督區內) △印八朱番

見北	廿三年度		廿四年度		兩年比較增減
	鬼脇	香深	枝幸	幸	
鬼脇	鬼脇泊	香深	枝幸	幸	
	鬼脇泊番外地	香深村字トシナイ百二十七番地	枝幸村番外地	幸	
	全上士族	全上平民	全上平民	全上平民	
	多田猶五郎	熊谷直吉	住吉爲右衛門	山本仁三郎	
	一	一	六	三	一
	一	一	五	四	一
	一	一	五	四	一

郵便線路略圖 (札幌郵便電信局所管) 明治廿五年十二月朔



大塚車哩數
八拾哩 但少室間岩
見澤間
中線里數
五拾四里貳拾
三可拾春間四
尺 但之吉小
痕留間
小線路里數
貳百九拾八町拾間
四尺
郵便路里數
一小樽函館間
貳百貳拾壹
里
一小樽ヲ増
毛之經ヲ推
内之ヲ百七
野塚 吉幸
岩内 岩内
神兼内 須村
爪拾貳里

寺家
高根
焼虎
大塚
岩間
野塚
吉幸
岩内
神兼内 須村
爪拾貳里
岩内
神兼内
須村
爪拾貳里
野塚
吉幸
岩内
神兼内 須村
爪拾貳里

三等郵便電信局郵便物及電報(札幌郵便電信局所管)
明治三十四年(關)

局名	郵便物		電報		計數
	取	配	發	着	
市來知	九七,五三七	二五,一九四	三三,六七三		
岩見澤	七九,七七〇	七九,三四〇	一五九,一一〇		
角田	三三,三〇九	五五,三三〇	八八,〇三〇		
江別	三三,三〇九	五五,三三〇	八八,〇三〇		
當別	三三,三〇九	五五,三三〇	八八,〇三〇		
月形	三三,三〇九	五五,三三〇	八八,〇三〇		
瀧川	九四,七二二	三三,八三三	一二八,五五五		
歌志內	三三,三〇九	五五,三三〇	八八,〇三〇		
茨戸	七六,六三三	三三,〇九二	一〇九,七二五		
石狩	三三,〇〇〇	四六,二八八	七九,二八八		
厚田	三三,〇〇〇	四六,二八八	七九,二八八		
濱益田	二四,二六九	三三,〇九二	五七,三六二		
室蘭	八六,八八〇	二五,一〇九	一一二,九九九		
元室蘭	二四,九九五	三三,九三八	五八,八八三		
西紋	五三,五五八	八五,八六二	一三九,四二〇		
虻田	八,九五四	一一,五七〇	二〇,五二四		
幌別	二七,八五四	三三,六二〇	六一,四七四		

次運運輸

五百七十九

市來知	局名	年次	三		四		兩年比較增減	
			金	高口數	金	高口數	金	高口數
泊岩	仁木	余路	九,八五〇	一五,八九九	二〇,八七九	二五,三三三	一〇,〇二九	一五,四三四
余路	忍谷	鹽函	五,五五一	七,〇〇〇	六,三五六	八,〇〇〇	〇	一,六七四
鹽函	錢谷	小嶺	一〇,四六四	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	〇	五,〇〇〇
小嶺	嶺野	庶野	一〇,四六四	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	〇	五,〇〇〇
嶺野	小幌	幌泉	一〇,四六四	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	〇	五,〇〇〇
幌泉	襟似	浦河	一〇,四六四	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	〇	五,〇〇〇
襟似	下布	下布	一〇,四六四	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	〇	五,〇〇〇
下布	門方	門方	一〇,四六四	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	〇	五,〇〇〇
門方	千別	千別	一〇,四六四	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	〇	五,〇〇〇
千別	苦歲	苦歲	一〇,四六四	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	〇	五,〇〇〇
苦歲	白牧	白牧	一〇,四六四	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	〇	五,〇〇〇
白牧	計	計	二〇,四二八	二八,三三三	二〇,四二八	二八,三三三	〇	七,九〇五

各局郵便爲替調(札幌郵便電信局所管)

無印は繰出
△印は排波

市來知	局名	年次	三		四		兩年比較增減	
			金	高口數	金	高口數	金	高口數
神惠	古平	古平	一六,七八一	二四,二七七	一〇,五八八	一六,八九二	〇	一三,六七六
古平	野塚	野塚	一四,七六四	二二,四九八	一三,三九七	一八,九三三	〇	一三,六八七
野塚	増毛	増毛	七,〇六二	九,六七一	一六,七四一	一八,九四三	〇	一七,七七〇
増毛	留鹿	留鹿	一三,七二五	二五,六一九	一三,九三三	二〇,八八九	〇	四,九六六
留鹿	苦前	苦前	一五,五二七	二二,七三三	一七,〇七〇	二〇,八八九	〇	四,九六六
苦前	天尻	天尻	一三,七二五	二二,七三三	一七,〇七〇	二〇,八八九	〇	四,九六六
天尻	燒内	燒内	一三,七二五	二二,七三三	一七,〇七〇	二〇,八八九	〇	四,九六六
燒内	稚内	稚内	一三,七二五	二二,七三三	一七,〇七〇	二〇,八八九	〇	四,九六六
稚内	枝幸	枝幸	一三,七二五	二二,七三三	一七,〇七〇	二〇,八八九	〇	四,九六六
枝幸	鬼泊	鬼泊	一三,七二五	二二,七三三	一七,〇七〇	二〇,八八九	〇	四,九六六
鬼泊	香深	香深	一三,七二五	二二,七三三	一七,〇七〇	二〇,八八九	〇	四,九六六
香深	計	計	一〇,九九九	一四,九三三	七,〇〇〇	一〇,九三三	〇	三,九三三

浦河	下々方	苦小牧	西紋盤	室蘭港	濱益	原田	石狩	瀧川	月形	江別	岩見澤
△七,八四七,七六五 △二,九〇〇,一七九	△九,一〇〇,〇〇〇 △一〇,〇〇〇,〇〇〇	△五,一三〇,九六六 △四,一〇〇,〇〇〇	△一,五〇〇,〇〇〇 △一,八〇〇,〇〇〇	△四,八〇〇,〇〇〇 △五,一〇〇,〇〇〇	△六,二八六,五九九 △二,一七四,四四四	△三,〇〇九,六四四 △二,四〇〇,〇〇〇	△五,九七九,〇八二 △二,七三九,九三三	△三,九三九,七三三 △九,〇〇四,一五五	△八,五七七,九八一 △九,〇九九,五七九	△二,三三三,三三三 △二,七九〇,〇〇〇	△一,六八二,二七五 △二,〇〇〇,〇〇〇
△九,一〇〇,〇〇〇	△二,一〇〇,〇〇〇	△九,八八八	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇
△九,一〇〇,〇〇〇	△二,一〇〇,〇〇〇	△九,八八八	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇
△九,一〇〇,〇〇〇	△二,一〇〇,〇〇〇	△九,八八八	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇
△九,一〇〇,〇〇〇	△二,一〇〇,〇〇〇	△九,八八八	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇
△九,一〇〇,〇〇〇	△二,一〇〇,〇〇〇	△九,八八八	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇	△一,〇〇〇,〇〇〇

幌泉	小樽	余市	岩内	神惠内	古平	増毛	鬼鹿	焼尻	稚内	鬼脇	香深
△一〇,六五五,〇八一 △七,四六四,九九九	△九,〇七三,二四九 △三,〇三六,七三九	△二,八一四,七三三 △六,五二八,四八一	△五,〇四三,九五六 △一,一七四,七七一	△一,六五五,〇八一 △三,二八八,六四三	△三,三三三,三三三 △三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三 △三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三 △三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三 △三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三 △三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三 △三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三 △三,三三三,三三三
△一〇,六五五,〇八一	△九,〇七三,二四九	△二,八一四,七三三	△五,〇四三,九五六	△一,六五五,〇八一	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三
△一〇,六五五,〇八一	△九,〇七三,二四九	△二,八一四,七三三	△五,〇四三,九五六	△一,六五五,〇八一	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三
△一〇,六五五,〇八一	△九,〇七三,二四九	△二,八一四,七三三	△五,〇四三,九五六	△一,六五五,〇八一	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三
△一〇,六五五,〇八一	△九,〇七三,二四九	△二,八一四,七三三	△五,〇四三,九五六	△一,六五五,〇八一	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三
△一〇,六五五,〇八一	△九,〇七三,二四九	△二,八一四,七三三	△五,〇四三,九五六	△一,六五五,〇八一	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三	△三,三三三,三三三

計

三三、〇八〇・九三	三五、〇四一	五五、三三〇・六四	五四、二八八全	二七、四三三・九七三全	一九、三二七
△九六、八六八、七七一	△八七、七三三	一九二、八二〇・九五	△一六、八五〇全	△九五、九五二、五二四全	△八〇、九七

備考 岩見澤は廿四年七月十六日より爲替事務開始、漣川は廿三年七月十六日より爲替事務開始、下々方は廿四年七月十六日より爲替事務開始、神恵内廿四年七月十六日より爲替事務開始、始、鬼鹿、焼尻、稚内、鬼脇、香深の五局は廿四年七月十六日より爲替事務開始

炭鑛鐵道會社

役員 (二十五年十二月末日調)

社長	高島 嘉右衛門	技術長	炭鑛課長 大島 六郎
理事	東京支社長 園田 實徳	支配人	庶務課長 植村 澄三郎
	庶務課長 二木 彦七		分任副課長 木邨 一是
	兼技術長 平井 晴二郎		東京支社事務主任 福澤 桃助
常議員	澁澤 榮一	技師	建築係 時任 静一
	田中 平八		鐵道課長 千 種 基
	東條 頼介		全課主任 藤田 重道
	湯池 定基		任副課長 石橋 政信
	西園寺 公成		夕張探炭所長 米倉 清族
			空知探炭所長

検査役	北村 英一郎	全	管内探炭所長 河相 保五郎
	金井 信之	副支配人	東京支社株式 堀 直 樹
副支配人	鐵道課長 成田 五十穂	技師取扱	建築係 石黒 誠二郎
	庶務課長 宇野 鶴太	全	夕張探炭所 目黒 末之丞

沿革事歴

明治廿二年六月侯爵徳川義禮外十二名の諸氏發起人となりて資本金六百五十万圓を募り探炭及鐵道運輸の業を發起し爾來本會社創立規約及定款を議定し官有鐵道及諸物件拂下並に土地建物其他の譲受又諸炭山借區權試掘權の移轉讓受等其經營完成せるを以て全年八月東京府下京橋區木挽町に北海道炭鑛鐵道會社創立事務所を設置す是より先き鹿兒島縣土族村田堤氏一個人にて手宮幌内間既設官有鐵道運輸業及幌内太幾春別間鐵道補足工事請負の許可を得て北有社と命名し廿一年四月以來開業せり爾後補足工事も竣て更に手宮幌内間鐵道運輸を併て營業しつゝありしか炭鑛鐵道會社の事務所を創立するに際し村田氏は運輸請負命令書を返還したり是に於て同會社創立發起人諸氏は室蘭空知太間幹線夕張空知の炭鑛に達する兩岐線新敷設の件其資本金に對する利子補給の件並に村田氏受負の官有鐵道其他拂下を請願せり越て廿二年十一月十八日付を以て右請願允許あり拂下鐵道運輸營業の本免狀を下付せらるゝや其準備を整頓し同年十二月十一日を以て鐵道運輸

及幌内幾春別炭礦の採炭業を開始せり是より本道の鐵道運輸は私設鐵道條例に據り始めて民業に歸す同會社創立の時に當りて官撰を以て堀基氏は社長園田實徳氏は理事となり又發起人會を以て候爵徳川義禮澄澤榮一高島嘉右衛門吉川泰二郎田中平八五氏は常議員に北村英一郎金井信之二氏は檢査役に撰定上任せり廿五年三四月の交社長堀基氏は解任常議員高島嘉右衛門氏官撰にて其後任社長と爲る其の鐵道設計は二十三年一月北海道廳長官の許可を得北海道廳一等技師松本莊一郎同二等技師平井晴二郎氏の兩工學博士布設工事上一切の監督を受けることとなせり同年二月會社の株券は華族世襲財産法の第三條第二類の資格あるものと可心得官宮内大臣の指令あり四月同會社は小樽に僻在し諸事不便利なるを以て札幌區北五條に出張所を置き専ら社務を扱ふこととす同月空知夕張兩炭礦開坑着手の準備整頓したるに依り空知探炭所を字「オタシナイ」に六月夕張探炭所を字「シオルカベツ」に設置せり又同年十一月本社を札幌に移轉す新設鐵道の運輸開始は二十四年の夏第二區線中岩見澤驛砂川驛間幹線砂川驛歌志内驛間岐線二十九哩餘の鐵道布設竣工を告げたるを以て七月五日より開業又同區線中砂川驛空知太驛間幹線二哩餘も工事を竣り二十五年二月一日より營業を始め第一區線中室蘭驛岩見澤驛間幹線八十三哩餘は同年八月一日より又同區線の内追分驛夕張驛間岐線二十二哩餘は同年十月より開業茲に於て創立の際設計せし全線は皆竣工したり

資本高及利益配當

明治二十二年八月會社創立の舉あるや株金總額六百五十萬圓一株五十圓十三萬株と定め内三萬二千五百株を發起人十三名の諸氏之を分擔し一萬株は帝室に於て御所有あらせられ殘る八萬七千五百株を廣く公衆より募集せり同年十一月創立の許可を得直ちに株式申込保證金並に第一回株金募集に取掛り爾後第八回目即ち二十五年前半期間に於て其拂込完結を告げたり此株金拂込金額の内より先づ新設鐵道部資金を引去り殘金額を以て既成鐵道部炭礦部の資金に充用す其資本金各部區別は左表の如し

資金各部區別表

半 期 別	募 集 年 月	新 設 鐵 道 部	既 成 鐵 道 部	炭 礦 部	合 計
明治廿二年前半期	第 二 年 一 二 月 回	400,000 円	100,000 円	100,000 円	1,000,000 円
自廿二年十二月十一日	第 三 年 一 五 月 回	300,000 円	300,000 円	200,000 円	1,000,000 円
至廿三年六月	合 計	1,100,000 円	400,000 円	300,000 円	1,900,000 円
全廿三年後半期	第 三 年 三 八 月 回	500,000 円	400,000 円	100,000 円	6,000,000 円
自 全 年 七 月	第 三 年 四 一 月 回	500,000 円	400,000 円	100,000 円	6,000,000 円
至 全 年 十 二 月	合 計	1,000,000 円	1,000,000 円	200,000 円	1,300,000 円

		全廿四年前半期		自全年一月	
		廿四年五月	廿四年六月	合計	
總計	至全廿四年後半	600,000	100,000	1,100,000	910,000
	自全廿四年前	1,100,000	500,000	2,100,000	910,000
	至全廿五年後半	550,000	50,000	1,100,000	780,000
	自全廿五年前	550,000	100,000	1,100,000	780,000
	至全廿九年前	550,000	100,000	1,100,000	780,000
總計	4,500,000	700,000	1,100,000	6,500,000	6,500,000

純益金配當は二十三年前半期間一株金四拾六錢とし金五万八千八百圓二十三年後半期は一株金壹圓五錢五厘にして金拾三万七千五百五十圓二十四年前半期は一株金貳圓拾壹錢にして貳拾七万四千三百圓二十四年後半期は一株金壹圓六拾八錢にして金貳拾壹万八千四百圓二十五年前半期は一株金壹圓八十四錢五厘にして金貳拾三万九千八百五拾圓なりし

線路延長及各驛哩程

拂下既成鏡道峴内線延長手宮驛峴内驛間の幹線は五十三哩餘其停車場は手宮、住吉、朝里、鏡函、輕川、琴似、札幌、厚別、野幌、江別、幌向、岩見澤、峴内太、峴内の十四驛あり峴内太驛より分岐幾春別驛に至る岐線は四哩餘又峴内及幾春別兩停車場より各其炭山に至る線路は通して四哩餘なり第二

區空知線岩見澤驛空知太驛間幹線は二十三哩餘其停車場は茅延、美唄、奈井江、砂川、空知太の五驛あり砂川驛より分岐歌志内驛に至る支線は八哩餘又歌志内停車場より炭山に至る線路は二哩餘なり第一區室蘭線室蘭驛岩見澤驛間幹線は八十三哩餘其停車場は室蘭、幌別、登別、白老、苫小牧、追分、由仁の七驛あり追分驛より分岐夕張驛に至る支線間に紅華山及夕張の二驛を置く其全延長は幹線百七十哩餘各驛哩程は左表の如し

炭礦鐵道總哩程表

(製調) 月二十年五十二治明

站名	手宮	住吉	朝里	錢函	輕川	琴似	札幌	野幌	江別	幌向	岩見澤	幌內太	幌內	幾春別	峯延	美唄	奈井江	砂川	歌志內	空知太	由仁	追分	紅葉山	夕張	苦小牧	白老	登別	幌別	室蘭	驛名						
住吉	一五七、四六																																			
朝里		四七八、五八																																		
錢函			三、一、一、一	八、二、八、一	五、四、一、九																															
輕川					一〇、一、九、一八	四、五、七、四九																														
琴似						八、七、三、九六	四、一、六、四七																													
札幌							六、五、〇、五〇	二、一、七、九二																												
野幌								一、七、五、八、二九																												
江別									二、九、七、六、〇八																											
幌向										三、三、一、七、二〇																										
岩見澤											三、九、〇、〇、六八																									
幌內太												四、二、〇、七、三二																								
幌內													三、五、五、九、五五																							
幾春別														四、七、六、四、八〇																						
峯延															四、二、五、九、五五																					
美唄																四、二、五、九、五五																				
奈井江																	四、八、六、七、三二																			
砂川																		四、八、六、七、三二																		
歌志內																			四、八、六、七、三二																	
空知太																				四、八、六、七、三二																
由仁																					四、八、六、七、三二															
追分																						四、八、六、七、三二														
紅葉山																							四、八、六、七、三二													
夕張																								四、八、六、七、三二												
苦小牧																									四、八、六、七、三二											
白老																										四、八、六、七、三二										
登別																											四、八、六、七、三二									
幌別																												四、八、六、七、三二								
室蘭																													四、八、六、七、三二							
驛名																														四、八、六、七、三二						

	空知太	由仁	追分	紅葉山	夕張	苦小牧	白老	登別	幌別
五	一〇八四二七三	六九二九四二	五九五一四	七四六四三	八六二〇一〇	三七四三九八	二四一〇〇五	一一三三四七	七六六五〇
四	一〇〇四六三三	六三三三九二	五一五四六四	六六六八〇二	七八三三六〇	二九四七四八	一六三三五五	四二五九七	
三	九六二〇六一	五七〇六九五	四七二八六七	六三三二〇五	七三七七六三	二五二二五二	一一六七五八		
二	八四三三六八	四五一九三七	三五四一〇九	五〇五五五七	六二一〇〇五	一三三三九三			
一	七〇七八四五	三二九五四四	二二〇七二六	三七二二〇五	四八五五二二				
九	七五五〇四五	三六二七二四	二六四八六六	一一三三三八					
八	六四〇四九七	二四七二六六	一五二三三八						
七	四八七一五九	九五八二八							
六	三九三三三三								

七二四

二十五年九月三十日開の車輛數は機關車「モーガル」形ランダル附二十輛「サッドルタンク」形二輛「サイトタンク」形二輛合二十四輛客車は特等壹輛上等二輛上中等混合二輛中等三輛中等荷室附二輛中並等混合二輛並等二十八輛合四十輛臺車は五百二十輛函車は二十六輛雪拂車は四輛にして總計六百十四輛なり

乗客及手回小荷物及一般貨物の賃金は遠からず改正あるへきに付之を略す又當會社の鐵道は専ら貨物運輸を主とするか故に時季を量り貨物列車の數を増減し其發着時間を變更するを以て旅客列車の發着時間も多少變動あるに依り其時間表を略す

各炭礦炭層の積量品質及採掘高

幌内炭山は其所屬物件とも政府より引繼を受け幾春別炭山は其借區權及所屬物件を北有社長村田堤氏より讓り受け共に廿二年十二月十一日より採炭の業を開始す空知炭山は前試掘頭人村田堤外二氏より讓り受け二十三年四月歌志内驛と炭礦間の假道路を通過して直ちに開坑に着手其石炭を運出したるは二十四年七月五日空知線の開業より始む夕張炭山も亦二十二年十二月村田堤氏より試掘權讓與の許可を得しか積雪に妨げられ二十三年四月に至り岩見澤より炭礦に連する荷物運搬の便を先きとして一條の道路を開通し以て開坑に起業したり幌内炭礦の煤炭は七層及海面下四千尺に至るの間猶三層あり其厚さ十層を合し四十二尺四寸五分前七層は三十一尺四寸五分後三層は十二尺にして總噸數一億三十

一万五千噸（米國地質學士「マナ」氏の測定）なりとす炭質は良好の名を市場に博し上等に位せりと云へり二十二年十月十一日より二十五年九月に至る三十四ヶ月間の採掘炭量を擧ぐれば塊炭は十九万五千八百七十七噸五分粉炭は十七万四千八百八十四噸三分なり従春別の炭層は十層其厚さ合計六十四尺〇五分其積量二百四十三万二千噸炭質は火勢強く且つ長く保つへしと云へり開始已來三十四ヶ月間の採掘炭量は塊炭七万五千七百七噸二分九厘七毛粉炭五万三千六百三十四噸二分五厘二毛なり空知の積量は八百九十三万七千噸炭質は内外人の評悪からず殊に粉炭は著しく絞合質を特有し無双の「コーク」製煉に適せりと云ふ其採炭は二十四年前半期間に起り二十五年九月に至る十數ヶ月間の數量塊炭五万二千三百二十九噸一分〇四毛粉炭九万二千二百八十六噸四分五厘九毛なり夕張の炭量は二千六百九十一万四千噸二十五年前半期間は夕張岐線工事中なるを以て少許の見本を各所に送り試験を乞ひ其成績最も宜しと云へり隨て採炭の量も唯其見本の採掘に過ぎざるを以て甚だ僅少なり塊炭は千七百六十八噸五分三厘粉炭は千七百五十八噸二分八厘七毛なり又歌志内の炭量は四百五十六萬噸なりと云ふ

石炭輸出高及消流先

内外輸出中最も重なる消流先は東京、函館、新潟、直江津、佐渡、石濱（密 城）及香港上海なり元來石炭の販路は二十三年迄内國に止りしか二十四年に至り空知及幌内炭を始めて香港に輸出し頗る好

評を得たるも當時の市況各地一般不振の傾きありて退日下落殆んど極點に達し隨て採掘販賣上の困難尙一層を加へたるか如し二十五年一月より十二月に至る石炭販賣高を左に擧ぐ

	販賣噸數	販賣代價
塊炭	一一〇、四四六、二九七	四三二、〇四七、八三四
粉炭	一〇八、二七七、〇九九	二〇七、六七〇、六三七
切込炭	二六、〇六〇、八三七	六七、九四〇、一六四
計	二五四、七八四、二三三	七〇七、六五八、六三三

日本郵船會社支店

函館支店は明治十六年九月三菱汽船會社の設立せし所に係る其後十八年三菱共同運輸兩社合併の節日本郵船會社函館支店と爲し以て今日に至れり自今北海道航海に關する見込は毎歲移住又は出稼等の人口年一年より増殖するを以て隨て旅客の往復頻繁且つ海陸生産物も増加の好況に付常道船舶の供給は益々夥多なるへし然れども社外船舶の沿海航路は年々増加すへきを以て收入運賃は減額の見込なり

函館港定繋船

船名	種類	登簿噸數	馬力	船長	姓名
----	----	------	----	----	----

田子ノ浦	播磨	北龍	青龍	立龍	松前	千歲	貫効	室龍
全	全	全	全	全	全	全	全	全
船	船	船	船	船	船	船	船	船
五四一、三八	四四七、一三	四三七、三七	四五三、〇五	四三三、八五	四四五、五三	三三五、五五	二一四、七三	一二三、四四
八五、〇〇	七二、〇〇	五九、〇〇	一〇八、〇〇	七八、〇〇	一〇〇、〇〇	五五、八四	六四、〇〇	三〇、〇〇
中島謙治	布目隣太郎	濱田盛太郎	梅田直之	辻新太郎	肥後猪之丞	中島吾平	伊達鐵吉	飯田林藏
高島長松	高島長松	高島長松	高島長松	高島長松	高島長松	高島長松	高島長松	高島長松

函館支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店
支配人	支配人	支配人	支配人	支配人	支配人	支配人	支配人	支配人
久保桑	東郷實	坂井正	安井幾	山崎清	玉置義	中山直	中山直	中山直
支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店

小樽出張所	根室出張所	全
副支配人	副支配人	手代
倉橋大介	河村則真	益城速雄
主任	主任	主任

函館小樽間船客荷物運賃

船客運賃	荷物運賃	合計
入出	入出	入出
二五、二八六、八二〇	四、〇三三、七五三	二九、三一〇、五七三
二四、三七七、二〇〇	三三、四一四、八二八	五七、九九二、〇二八

遭難船舶

船名	遭難年月日	遭難地
近江丸	廿五年七月七日	北海道渡島國龜田郡尻岸内村字ヨリカイウタ

自小樽至各地船客運賃表

地名	上等	中等	下等	地名	上等	中等	下等
能代	一一、〇〇			函館往復	一一、六〇〇	七、四〇〇	二、〇〇〇
四、〇〇							

交通運輸

五百九十六

土船	酒田	飛島	新島	佐渡	直江津	伏木	敦賀	境	下関	増毛	焼尻	鴛泊	稚内	紋
川崎	田島	茂島	渡瀬	津	津	木	賀	賀	關	關	尻	泊	内	籠
一、二、〇〇	一、三、五〇	一、三、五〇	一、六、〇〇	一、八、〇〇	一、九、〇〇	二、三、〇〇	二、三、〇〇	二、七、〇〇	三、二、〇〇	二、五〇〇	三、七、五〇	五、七、五〇	七、五〇〇	一、二、五〇
四、五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	六、〇〇	六、五〇〇	七、〇〇	八、五〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一、二、〇〇	一、〇〇	一、五〇	二、三〇	三、〇〇	五、〇〇
萩ノ濱全	萩ノ濱全	神戶全	函館往復	函館往復	萩ノ濱全	横濱全	横濱全	神戶全	網走	鬼島	禮文	幸		
一、九、〇〇	一、九、〇〇	二、七、〇〇	一、四、八〇	一、四、八〇	二、五、〇〇	三、〇、〇〇	三、〇、〇〇	三、〇、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	六、二、五〇	一〇、〇〇		
二、七、〇〇	二、七、〇〇	二、七、〇〇							一、五、〇〇	一、五、〇〇				
三、五〇	三、五〇	五、〇〇	七、五〇	七、五〇					六、〇〇	二、〇〇	二、〇〇			

表中中等運賃の記載なき分は下等運賃の一倍増と知るへし

小樽函館間貨物船客運賃合計表(自十四年九月)

一金三万七千五百六拾圓〇貳拾貳錢一厘

内壹万四千餘圓は社用石炭回漕の運賃なり

小樽近海各場所積取荷物運賃割場表

品名	地名	忍路余市	猿井古字	厚岩	田内	留附	明毛	鬼鹿力遊	禮利	文尻	稚内	猿拂	枝幸
白子	樽	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
白子身欠	樽	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
白子身欠	樽	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
白子身欠	樽	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
白子身欠	樽	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
白子身欠	樽	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
白子身欠	樽	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
白子身欠	樽	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
白子身欠	樽	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
白子身欠	樽	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
白子身欠	樽	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
白子身欠	樽	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
白子身欠	樽	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
白子身欠	樽	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

交通運輸

五百九十七

一本表は小樽より各地行運賃上増加する金額にしてたとへば小樽より東京行の白子石の運賃七拾圓なるときは増毛より東京行は此表に照し金七拾七圓となるか如し

一今各場所より甲船を以て積取小樽に於て乙船へ接續するときは前例運賃の上に小樽接續入費を加へ計算すへし

一前項小樽接續荷物は本表中小樽全額及岩内厚田の分に限り積丹或は増毛の定額に倣ひ時宜に依り取極するものとす

自小樽至近海各場所荷物運賃表

地名	品名	取	増毛	焼尻	尻鹿	禮利	文尻	稚内	枝幸	紋	魁	摘	要
元	價	百	三〇	三九	五二	六一	六〇	七八	九〇	九〇	全	解會社持	
壹	等	百	二八	三〇	四〇	五〇	六〇	七八	九〇	九〇	全	解會社持	
二	等	百	二七	二八	三〇	四〇	五〇	六〇	七八	九〇	全	解會社持	
三	等	百	二五	二六	二七	三〇	四〇	五〇	六〇	七八	全	解會社持	
四	等	百	二四	二五	二六	二七	三〇	四〇	五〇	六〇	全	解會社持	
小	等	百	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	全	解會社持	
全	等	百	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	全	解會社持	
米	雜	百	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	全	解會社持	
全	雜	百	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	全	解會社持	
全	雜	百	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	全	解會社持	
米	雜	百	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	全	解會社持	
全	雜	百	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	全	解會社持	
全	雜	百	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	全	解會社持	
米	雜	百	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	全	解會社持	
全	雜	百	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	全	解會社持	
全	雜	百	〇九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	全	解會社持	
米	雜	百	〇八	〇九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	全	解會社持	
全	雜	百	〇七	〇八	〇九	一〇	一一	一二	一三	一四	全	解會社持	
全	雜	百	〇六	〇七	〇八	〇九	一〇	一一	一二	一三	全	解會社持	
米	雜	百	〇五	〇六	〇七	〇八	〇九	一〇	一一	一二	全	解會社持	
全	雜	百	〇四	〇五	〇六	〇七	〇八	〇九	一〇	一一	全	解會社持	
全	雜	百	〇三	〇四	〇五	〇六	〇七	〇八	〇九	一〇	全	解會社持	
米	雜	百	〇二	〇三	〇四	〇五	〇六	〇七	〇八	〇九	全	解會社持	
全	雜	百	〇一	〇二	〇三	〇四	〇五	〇六	〇七	〇八	全	解會社持	
全	雜	百	〇〇	〇一	〇二	〇三	〇四	〇五	〇六	〇七	全	解會社持	

地名	品名	取	増毛	焼尻	尻鹿	禮利	文尻	稚内	枝幸	紋	魁	摘	要
元	價	百	三〇	三九	五二	六一	六〇	七八	九〇	九〇	全	解會社持	
壹	等	百	二八	三〇	四〇	五〇	六〇	七八	九〇	九〇	全	解會社持	
二	等	百	二七	二八	三〇	四〇	五〇	六〇	七八	九〇	全	解會社持	
三	等	百	二五	二六	二七	三〇	四〇	五〇	六〇	七八	全	解會社持	
四	等	百	二四	二五	二六	二七	三〇	四〇	五〇	六〇	全	解會社持	
小	等	百	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	全	解會社持	
全	等	百	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	全	解會社持	
米	雜	百	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	全	解會社持	
全	雜	百	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	全	解會社持	
全	雜	百	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	全	解會社持	
米	雜	百	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	全	解會社持	
全	雜	百	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	全	解會社持	
全	雜	百	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	全	解會社持	
米	雜	百	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	全	解會社持	
全	雜	百	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	全	解會社持	
全	雜	百	〇九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	全	解會社持	
米	雜	百	〇八	〇九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	全	解會社持	
全	雜	百	〇七	〇八	〇九	一〇	一一	一二	一三	一四	全	解會社持	
全	雜	百	〇六	〇七	〇八	〇九	一〇	一一	一二	一三	全	解會社持	
米	雜	百	〇五	〇六	〇七	〇八	〇九	一〇	一一	一二	全	解會社持	
全	雜	百	〇四	〇五	〇六	〇七	〇八	〇九	一〇	一一	全	解會社持	
全	雜	百	〇三	〇四	〇五	〇六	〇七	〇八	〇九	一〇	全	解會社持	
米	雜	百	〇二	〇三	〇四	〇五	〇六	〇七	〇八	〇九	全	解會社持	
全	雜	百	〇一	〇二	〇三	〇四	〇五	〇六	〇七	〇八	全	解會社持	
全	雜	百	〇〇	〇一	〇二	〇三	〇四	〇五	〇六	〇七	全	解會社持	

一本表は小樽増毛を基本とし甲の場所より乙の場所に至る運賃を定むるものなり
 一例を挙げれば小樽増毛燻等品一才八錢なるとき岩内古宇間は
 本表により運賃の八掛則ち六錢四厘なり亦岩内原田間は
 一六掛則ち拾貳錢八厘なり(厘位は四捨五入の事)

小樽	厚田	濱益	増毛	留筋	鬼鹿	苦前	焼尻	利尻	禮文	稚内	枝幸	紋甕
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六

藤山 要吉 東幸三郎 金子元三郎
 本間 泰造 遠藤又兵衛
 支配人 麻里英三 手代 五人
 所在地 小樽港堺町十番地
 代理店 一ヶ所 取扱店 十五ヶ所
 沿革及營業概況

二十二年八月頃天鹽北見の重立たる漁業家及商業家二國の運輸交通不便なるを歎し本社創立の計畫をなし小樽其他地方人の賛成する所となり汽船製造を東京石川島造船所に托し二艘の新船を得二十三年五月之を當地に回付し五月一日天鹽國増毛郡辨天町一丁目十番地に本社を設けて開業せり其後都合に依り二十四年七月株主總會の決議により本社を當小樽に移轉す明治二十四年七月より全二十五年六月に至る収支高は下の如し収入總計二万四千二百六十九圓二十二錢九厘内雜支出一万九千五百七十三圓九錢四厘差引四千六百九十六圓十三錢五厘の利益なり
 當社は創立の主意に依り専ら天鹽北見兩國の運輸交通に従事するを以て社船は常に小樽稚内間の定航をなし且つ遞信省より郵便物遞送の命令を蒙り遞送し居れり而して増毛宗谷地方は毎年春末より秋初迄は他汽船の航海するとあるも十一月以降の如きは航海困難にして日本郵船會社の如き

も休航し他船の如きは航海するもの殆んど稀なるか故に去る二十四年冬季は北海道廳の命令に應じ十一月以降三月迄毎月二回増毛焼尻鬼脇鷺泊禮文に寄港し稚内迄の定期航海をなし郵便物の便を計り二十五年は尙進んで網走迄の定期航海を毎月一回つゝ爲し居れり是れ單に營利的のみならず社會交通機關の本意を達せしむるの創立の主旨に基きたるものなり故に利益配當の如きも自由航海船の如く充分なる能はず然れども二十六年は一層社業の隆盛を計り更に汽船を新造し航路を延長し小樽網走間の定期航海を開き更に新潟酒田地方にも航路を開く目的なりと云ふ

資金融船株式並船

資本金は一株金二十五圓千八百七十九株より成る其所有船は天鹽丸、總噸數百五十七七九二、登簿噸數八十九噸數一一、船体は木船綱具の裝置スクーナル、製造年月二十三年三月石川島造船所にて、機關の種類は聯成機關、推進器の種類暗車、公稱馬力三十五馬力、船路定期内國航船、保險の種類貨物保險、船長大山末吉、機關士以下十六人、北見丸、登簿噸數六十噸五六、船体の材料木製、綱具の裝置スクーナル、製造年月二十三年七月、機關の種類暗車、公稱馬力三十三馬力、船長木佐貫正太郎、機關士以下十四人なり

函館汽船會社

明治二十一年六月二十一日設立す運賃は郵船會社規定より凡う一割引船船は三艘即ち渡島丸、七

十五噸(十九年買入船長中西權兵衛)北海道丸、三百九十八噸(二十五年買入船長山本久兵衛)北門丸、四百二十六噸(二十五年新造船長岡謙次郎)なり乗客並に荷物の廻運業並に二棟(煉瓦造瓦屋根各百坪)の倉庫を以て荷物を預り倉敷料を徴し荷爲替を爲す其資本は十萬圓、五十圓株、二十五名の有限責任株主より組成す明治十九年一月始めて組合組織を以て資本金二萬五千圓にて營業せしかは追々業務繁忙となり遂に二十一年春に至り賛成者増加し現今の組織に改めたり近年北海道に出入する貨物並に乗客共に漸々増加の傾きあり隨て當會社の信用も益増加の勢なれば業務も追々擴張せんとす其航海は貨物並に荷主との摸様に依り一定せず社長は田中正右衛門氏取締役五名支配人一名外役員九名小使二名乗組員二十八名(北海道丸)十一名(渡島丸)二十二名(北門丸)あり所在地は函館區船場町二十一番地なり

石狩川汽船會社

明治二十二年四月資本金五千圓を以て樺戸郡月形村に設立し二十五年四月資本金一萬圓を増額し江別村へ移轉す株主は五名運搬營業に従事し資本金一萬五千圓の内一萬二千圓拂込利益配當平均一ヶ年一割なり河蒸汽船三艘淀河船十二艘所有し樺戸郡月形村に出張所を置く現任役員は委員長土田政次郎取締役富益頼道支配人星井圭介諸氏外に雇員十五名あり本社は石狩國札幌郡江別村にあり

郵船會社外小樽各地航海船舶
色内町倉内回漕店元扱
十六番地

船名	持主	噸數	明治二十五年航取
樺戶丸	增毛本間泰造	三拾五噸	小樽間 六十五回
第四飛龍丸	小樽加藤清俊	三拾噸	宗谷間 三十五回

色内町回漕店元扱
十五番地

幸盛丸	紀伊藤岡正一郎	二百二十四噸	大小樽間 七回
幸照丸	全	二百二十九噸	全
芳野丸	根室藤野四郎兵衛	四百六十五噸	全
龍平丸	兵庫日本精米會社	三百八十四噸	全
第一正義丸	大坂福永政七	不詳	全
第二正義丸	全	二百二十二噸	大小樽間 十二回
雷安丸	全	不詳	全
浦安丸	函館函館汽船會社	三百九十八噸	全
北海丸	函館函館汽船會社	三百九十八噸	全

色内町岡田回漕店元扱
三十三番地

中越丸	伏木中越汽船會社	九百六十二噸	小樽間 二回
小菅丸	全	九百二十七噸	全

南渡町西谷回漕店元扱
三番地

小島丸	小樽西谷庄八	拾五噸	西邊岸古平迄の定期船にして毎日一回
北海丸	全	九十五噸	小樽間 五十二回
北辰丸	東京岡信二郎	七百三十五噸	宗谷間 二十二回
錦城丸	函館平出喜三郎	不詳	全
北門丸	全	全	全
兵庫丸	大坂伊藤忠兵衛	七十八噸	小樽間 二十回

色内町井回漕店元扱
二十二番地

回陽丸	函館服部次郎次	八十四噸	井回漕店は出火の際機機損失に付本店元扱に採る航運数は開製し能はず以下全し
海龍丸	尾張半榮社	二百七十六噸	
豐川丸	大坂近藤喜六	二百三十七噸	
三保丸	函館新田太平	二百十五噸	
萬國丸	東京淺野回漕店	不詳	

地名	船名	主船	船號	摘要
松根	前室	全	八十五	內國航路(重ニ大坂北海間ヲ航海ス) (全大坂東京地方ヲ航海ス) <small>(廿五年未決ス)</small> <small>(全北海新海地方ヲ航海ス)</small> (全東京大坂地方ヲ航海ス)
鯉洋	全	四十七		
防長	全	二百九十七		
共益	全	二百七十三		
函立	全	二百二十七		
第五	新瀨	七十七		
第三	早川	二百九十六		
第二	樋口	八十七		
第一	早川	九十二		
龜崎	酒田	八十七		
松根	前室	全	六百六十七	六百六十七噸 六百七十噸 二百五十三噸 六百二十二噸 六百七十噸 九十八噸 六百六十五噸 八百六十噸 八百七十三噸 四百九十二噸 四百八十四噸 二百八十二噸 六十五噸 百四十一噸 八十八噸 四十二噸 三十五噸 三十一噸 三十六噸 六十一噸
江運	全	六十一		
美玉	全	三十一		
相川	全	三十二		
紀川	全	四十二		
惠比壽	全	八十八		
鴻益	全	六十五		
金剛	全	百八十二		
加能	全	四百九十二		
豐瑞	全	八百七十三		
高佐	全	八百六十		
佐古	全	九十八		
奈浦	全	六百六十五		
荻家	全	六百七十		
社本	全	六百二十二		
日鶴	全	六百七十		
金澤	全	二百五十三		
日出	全	六百六十七		

交通運輸

交通運輸

六百九

六百八

鹽田回漕店元扱
取扱船船

小	全	福	新	全	全	福	岩	全	函	全	全	岩	全	大	全	全	全	全	全
樽	山	瀨	山	內	館	內	坂												
麻	全	岡	會	北	全	全	輪	船	岩	全	船	北	全	全	船	岩	全	東	全
里	田	社	洋				會	前	會	內	會	海	社	流	社	流	東	英	航
流	流	流	流	流	流	流	流	流	流	流	流	流	流	流	流	流	流	業	會
船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	社	流
凌	渡	通	北	松	江	運	北	江	仁	康	後	一	浦	寧	皇	石	日	愛	加
波	島	濟	洋	前	差	輸	運	榮	壽	安	志	兩	靜	國	川	光	國	賀	賀
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
((((((((((((((((((((
北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北
海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海
航	航	航	航	航	航	航	航	航	航	航	航	航	航	航	航	航	航	航	航
海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海	海
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス

越	全	函	全	新	全	計	越	全	函	全	新	全
前	館	瀨	清	全		田	會	筑	藤	清	全	
上	社	前	水	全	上	社	前	水	全			
流	流	流	流	流	流	流	流	流	流			
船	船	船	船	船	船	船	船	船	船			
六	龍	巴	北	明	六	龍	巴	北	明			
甲	港	越	德	飛	甲	港	越	德	飛			
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九			
((((((((((
新	新	新	新	新	新	新	新	新	新			
瀨	瀨	瀨	瀨	瀨	瀨	瀨	瀨	瀨	瀨			
海	海	海	海	海	海	海	海	海	海			
航	航	航	航	航	航	航	航	航	航			
海	海	海	海	海	海	海	海	海	海			
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス			

明治廿五年度輸出入貨物及船客略表

科目 個數 運賃

輸出貨物	三拾三萬四千三百三十二個	五萬五千五百二十二圓餘
輸入貨物	三拾七萬八千七百九十八個	三萬二千五百三十二圓餘
船客	八千二百五十七人	一萬七千四百四十八圓餘

右之外青森秋田地方出張先ニテ取扱分大凡

船客	一萬萬人	一萬二千圓餘
貨物	三萬個餘	五百圓餘

電信電話表

年次	電線		電延	粘	丁	間	長
	信	路					
明治七年	一三三、二一	一七、〇〇					
八年	一三三、二一	一七、〇〇					
九年	一三三、二一	一七、〇〇					
十年	一三三、二一	一七、〇〇					
十一年	一三三、二一	一七、〇〇					
十二年	一三三、二一	一七、〇〇					
十三年	一三三、二一	一七、〇〇					
十四年	一三三、二一	一七、〇〇					
十五年	一三三、二一	一七、〇〇					
十六年	一三三、二一	一七、〇〇					
十七年	一三三、二一	一七、〇〇					
十八年	一三三、二一	一七、〇〇					
十九年	一三三、二一	一七、〇〇					
二十年	一三三、二一	一七、〇〇					
二十一年	一三三、二一	一七、〇〇					
二十二年	一三三、二一	一七、〇〇					
二十三年	一三三、二一	一七、〇〇					
二十四年	一三三、二一	一七、〇〇					
全	五〇一、〇三	二九、四					

明治七年十二月松前、函館、森、長万部、室蘭、札幌、小樽間架設成る、全八年十月長万部閉局、全九年五月松前局を福山局と改稱、全十二年七飯函館間架設成る、全十三年十二月札幌手宮間架設成る手宮錢函に置局、全十四年七月茅沼、岩内、壽都、森間架設成る茅沼、岩内、壽都に置局、全十五年岩内、茅沼間電信線及茅沼局を廢す小樽、余市、岩内間架設成る余市に置局、全十六年九月手宮、幌内間電信線成る從前の電信線を變更せしもの、全十七年七月札幌警察署、監獄署間電話線十月札幌根室間電信線成る、全十八年森、室蘭間電信線を廢す福山、江差間に電信線を架し江差に置局、全十九年札幌函館間に電信線を架し二番線と稱す、全二十年三月市來知幌内外役所間に七月市來知月形間に及跡佐登標茶間に電信線を架す、全二十一年三月幌内外役所全事務所間に及四月札幌警察署札幌監獄署間の電信線を延長す八月標茶釧路間九月札幌警察署間に電信線を架し八月札幌小樽間の電信線二十六町四間を縮む十二月札幌石狩間に電信線石狩増毛間に電信線を架す、全二十二年八月余市、古平十月久遠、江差十一月市來知、忠別間十一月農學校、農園間本廳札幌區役所、屯田兵司令部農學校農園種畜場間に電信線を架し本廳外六ヶ所に電話を据付く、全二十三年七月室蘭、西紋間に九月増毛、留萌、苫前、稚内間、十一月根室標茶間十二月標茶、網走間電信線成る、全二十四年是歲北見國網走、紋間に後志國壽都、永豐間の電信線成り二十五年二月より開通す

汽車收入表

年次	乘客		手荷物及貨物	石炭	雜收入及小運賃	合計
	客	貨				
十九年度	七三,五三三	—	七三,〇六三	—	—	七三,〇六三
二十年度	八二,〇〇六	—	八二,〇〇六	—	—	八二,〇〇六
二十一年度	一六〇,三五六	—	一三八,一六五	—	—	一三八,一六五
二十二年度	一九七,二四五	—	一六三,三三三	—	—	一六三,三三三
二十三年	二六六,八一四	—	二二〇,三三三	—	—	二二〇,三三三
二十四年	四〇二,四六四	—	三三〇,五七四	—	—	三三〇,五七四
十九年度	三,一〇三	—	—	—	—	三,一〇三
二十年度	三,〇〇六	—	—	—	—	三,〇〇六
二十一年度	三,九四八	—	—	—	—	三,九四八
二十二年度	三,〇〇六	—	—	—	—	三,〇〇六
二十三年	三,〇〇六	—	—	—	—	三,〇〇六
二十四年	三,〇〇六	—	—	—	—	三,〇〇六
合計	一,〇六〇,〇〇〇	—	一,〇六〇,〇〇〇	—	—	一,〇六〇,〇〇〇

在籍日本形船舶

年次	船數		噸數	馬力
	船	噸		
明治十五年	六七	五,一九一	四,八四三	—
十六年	五四	四,四〇〇	三,四二一	—
十七年	四三	三,四九二	二,九〇九	—
十八年	三七	二,七三三	二,〇八九	—
十九年	三〇	二,八〇〇	二,一六三	—
二十年	三三	二,七〇〇	二,一八四	—
二十一年	三三	二,七〇〇	二,一八四	—
二十二年	三三	二,七〇〇	二,一八四	—
二十三年	三三	二,七〇〇	二,一八四	—
二十四年	三三	二,七〇〇	二,一八四	—
合計	四一〇	三,〇〇〇	二,〇〇〇	—

在籍西洋形船舶

年次	船數		噸數	馬力
	船	噸		
明治十三年	二	三〇	—	—
十四年	三	四〇	—	—
十五年	七	一〇七	—	—
十六年	五	九八	—	—
十七年	六	八〇	—	—
十八年	七	七五	—	—
十九年	二	六七	—	—
合計	三二	三二七	—	—

年次	入				出			
	流	船	風帆	計	流	船	風帆	計
全二十四年	四	四	二	一〇	一五	一〇,〇八七	九〇,一八八	一〇,九七五
全二十三年	四	四	九	一七	一三	三,三二五	四九,九五五	八,一〇〇
全二十二年	八	九	二	一〇	一〇	七,八一八	九八,一八八	一七,六二九
全二十一年	三	九	六	一八	一五	六,九六六	二九,六六〇	九,六二六
全二十年	三	九	一〇	二二	一五	三,六二二	四二,三三九	四,九六一
全十九年	二	四	一	七	一八	一八,二四八	六四,四四五	二四,六九三
明治十八年	八	二	一	一一	二四	四三,一六六	七三,六三三	一一,八七九

外國船商館港出入表

年次	入		出	
	流	計	流	計
全二十四年	六,七九一	九〇,九三三	一,七〇九	一七,〇九七
全二十三年	六,〇八三	七三,三六〇	一,四三九	一四,三八九
全二十二年	七,二〇〇	五五,五二二	一,二六八	一三,九三三
全二十一年	七,八九二	四三,三五四	一,三三三	一三,四七〇
全二十年	八,三三五	三三,五二五	一,二八三	一三,〇三三
明治十九年	八,八八五	二九,六四四	九,九二二	一一,八一一

年次	入				出			
	流	船	風帆	計	流	船	風帆	計
全二十四年	六,六九〇	九〇,九〇〇	一,二四六	一七,〇三六	一,三二五	一三,五八〇	一〇,三〇九	一七,八二五
全二十三年	六,〇〇四	七三,四四九	九三七	一四,二九〇	一,二二一	一〇,二八四	一〇,二八四	一三,五七〇
全二十二年	六,七〇〇	五五,四九一	一,〇一八	一三,八六九	一,一〇二	一〇,二八九	一〇,二八九	一三,五七〇
全二十一年	七,八八一	四三,四四三	一,一三七	一三,四六〇	一,一〇二	一〇,二八九	一〇,二八九	一三,五七〇
全二十年	八,二九三	三三,五三〇	一,一七一	一三,〇〇〇	一,一〇二	一〇,二八九	一〇,二八九	一三,五七〇
明治十九年	八,六八八	二九,五五八	九七九	一三,六六五	一,一〇二	一〇,二八九	一〇,二八九	一三,五七〇

内國船管内出入表

年次	入				出			
	流	船	風帆	計	流	船	風帆	計
全二十四年	五	五	七	一七	一六	四,八五五	五,四〇六	一〇,二六一
全二十三年	五	五	八	一八	一五	四,九〇四	五,六三三	一〇,五三七
全二十二年	四	三	六	一三	一三	三,七六七	五,七〇七	九,四七四
全二十一年	二	二	八	一〇	一〇	三,三三三	五,三九〇	八,七二三
全二十年	二	二	七	一〇	一〇	三,三三三	五,三九〇	八,七二三

明	全	全	全	全	全	全
治十八年	十九年	二十年	二十一年	二十二年	二十三年	二十四年
七	二	三	九	八	七	四
七	一	六	二	八	七	七
二	〇	三	一	二	一	二
三、九〇三	一、八七三	三、五二二	六、九六六	七、八一	七、九四四	三、六五二
七、五〇三	八、四一一	四、〇一〇	二、九六〇	九、八二八	三、五二二	二、九〇四
一、四〇六	二、七二二	三、九三三	九、九二六	一、七六二	二、四四七	六、五五六

燈臺表

名	稱	等級	位	置	燈	明	光達距離	初點年月日
標	裝崎	一等	幌泉郡南端	回轉	白色	二	二一	二十二年六月二十五日
宗	谷北端	二等	宗谷郡北端	回轉	白色	一七	一七	十八年九月二十五日
神	威崎	二等	積丹郡北端	回轉	白色	一八	一八	二十一年八月二十五日
白	石崎	二等	松前郡南端	回轉	紅白交閃	一七	一七	二十一年九月十五日
落	山崎	二等	花咲郡南端	回轉	白色	一八	一八	二十三年十月十五日
惠	山崎	二等	龜田郡東端	回轉	紅白交閃	一七	一七	二十三年十一月一日
葛	支崎	三等	上磯郡茂邊地	明暗	白色	一七	一七	十八年十二月十五日
萬	和崎	三等	奥尻郡北端	回轉	白色	一八	一八	二十四年十二月一日
日	和崎	四等	高島郡東端	不	白色	一五	一五	十六年十月十五日

納	厚	計	釧	福	花	辨	増	幌	室	浦	石	辨	函
沙	羅	羅	武	威	崎	島	咲	毛	泉	河	河	天	天
岸	威	威	崎	崎	島	島	島	島	島	島	島	島	島
五	五	六	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等
花	厚	國	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松
咲	岸	後	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前	前
郡	郡	島	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
東	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南	南
端	端	端	端	端	端	端	端	端	端	端	端	端	端
不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不
動	動	動	動	動	動	動	動	動	動	動	動	動	動
白	白	白	白	白	白	白	白	白	白	白	白	白	白
色	色	色	色	色	色	色	色	色	色	色	色	色	色
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

此他函館港辨天砲臺より斗出せる洲上に白色浮標ありて大抵湖の水深四尋明治四年の設置なり
 △は霧笛又は霧鐘ある所なり
 前表を等級によりて種別すれば

各地里程概表

全二十四年	全二十三年	全二十二年	全二十一年	全二十年	全十九年	全十八年	全十七年	全十六年	全十五年	全十四年	全十三年	全十二年	全十一年	全十年	全九年	全八年	全七年	全六年	全五年	全四年	全三年	全二年	全一年
三	三	一	一	一	三	三	三	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
		三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
一	一	九	六	六	七	五	五	五	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
					一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
					三	八	八	七	七	七	六	六	五	五	四	三	三	三	三	三	三	三	三
三	二	四	三	三	八	八	八	六	六	三	二	二											
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	八	七	八	二	一	一	〇	〇	〇	八	八	八	八	八	六	七	七	七	七	七	七	七
七	四	〇	九	一	八	八	八	九	九	三	七	六	一	〇	七	〇	七	七	七	七	七	七	七
七	五	六	九	三	一	九	九	六	五	四	四	二											
〇	一	七	〇	三	九	九	六	五	四	四	二												

全七年	全六年	明治五年	年次	燈船	燈竿	燈臺計	一等	二等	三等	四等	五等	六等	外等
一	一	一	一等郵便局	一	一	三	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二等郵便局	二	二	九	一	一	一	一	一	一	一
三	三	二	三等郵便局	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一
七	一	一	四等郵便局	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	五等郵便局	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	一	一	郵便受取所	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	二	二	計	三	二	二	一	一	一	一	一	一	一
七	二	二	爲替貯金取扱所	七	二	二	一	一	一	一	一	一	一

泊	斜古丹内	保振	別紗	那藥	取單	冠別飛府西	別網	走猿洞湖
根室	三三	六三	二二	二二	一七	二七	二七	七五
天賣	二	古平	留萌	久遠	奥尻	小樽	一五	六八
燒尻	二	一五	六八					

第十五編 道路港灣

土木事業費

將來施行を要する土木事業費の概算を聞くに其額無慮一千五百五十六万六千九百九十圓なりと云ふ今之か雜費を概算高に對する百分の五と見積り此金七十七万八千三百四十九圓五十錢を加ふれば其總額金一千六百三十四万五千三百三十九圓五十錢なり若し之を今後即ち明治廿二年より十ヶ年間繼續施工するものとすれば其年額一百六十三万四千五百三十三圓九十五錢にして十五年間の繼續とするときは年額一百餘万圓なりとす又土地の形勢に依ては或は運河の開鑿を必要とする場合もあるへく諸川の堤防掘削等も起るへし殊に築港の如きは目下の最大急務なりとす此經費豫算は從來外國工師の設計に據りたれども其金額或は失當なるものあるへく其計畫亦悉く信すへしども思はれず蓋し大に改正を要する者あらん然れども他に標準なきを以て姑く之に依りたり今更將來施行すへき土木工事の調査を左に掲記す

道路工費

地名	里	程	金	員	壹里當
函館福山間	二十里五分七厘		金十四万三千九百九十圓		金七千圓
福山江差間	十七里二分		金十二万四百圓		全

久遠瀬柳間	九里七分八厘	金六万八千四百六十圓	全
瀬瀬壽都間	二十一里九分三厘	金十五万三千五百十圓	全
壽都岩内間	十一里五分	金八万八千圓	全
岩内古平間	十九里六分三厘	金十三万七千四百十圓	全
小樽錢函間	三里九分四厘	金二万七千五百八十圓	全
錢函石狩間	五里三分	金三万七千百圓	全
石狩厚田間	五里二分七厘	金三万六千八百九十圓	全
厚田増毛間	十六里九分	金十一万九千圓	全
増毛宗谷間	廿五里七分一厘	金廿万五千六百八十圓	全
宗谷枝幸間	五十二里二分五厘	金四十一万八千圓	全
枝幸紋籠間	二十三里七厘	金十八万四千五百六十圓	全
紋籠網走間	二十一里八分三厘	金十一万四千六百四十圓	全
標津根室間	十五里二厘	金十二万六千圓	全
下湯ノ川 森間	三十里九分九厘	金廿一万六千九百三十圓	全
長万部舊室蘭間	十八里四分三厘	金十二万九千十圓	全
舊室蘭幌別間	四里八分三厘	金三万三千八百十圓	全
苫小牧浦河間	廿九里六分三厘	金十万七千四百八十圓	全
浦河幌泉間	十里三分	金七万二千百圓	全
幌泉廣尾間	十三里七分八厘	金九万六千四百六十圓	全
廣尾大津間	十三里八分一厘	金九万六千六百七十圓	全

大津釧路間	十九里六分四厘	金十三万七千四百八十圓	全
釧路厚岸間	十五里八分六厘	金十一万二千二十圓	全
厚岸昆布森間	廿一里三分六厘	金十四万九千五百二十圓	全
斜里幌内間	十一里五分	金九万二千圓	全
標津羅臼間	十八里五分	金十四万八千圓	全
根室野沙布花咲間	十一里五分	金九万二千圓	全
計	四百九十里 四厘	金三百五十五万六千四百四十圓	
上川根室間	九十四里	金九十四万圓	金一万圓
空知太空知炭山間	四里	金三万六千圓	金九千圓
空知炭山(ベンケシントク)間	十八里	金十六万二千圓	全
鶴川(ベンケシントク)間	二十五里	金廿二万五千圓	全
大津音更原野間	十九里	金十七万千圓	全
十勝洞佛太陸別間	二十里	金十八万圓	全
厚岸濱中間	五里	金四万五千圓	全
落石音根洞間	三里二分	金二万八千八百圓	全
群根別虹別間	十九里	金十九万圓	金一万圓
サウツルビ(ホロポンキン)間	十九里	金十九万圓	全
忠別網走間	四十五里	金四十五万圓	全
鶴川陸別間	九里	金九万圓	全

紋籠ナヨロ間	二十里	金二十二万圓	全
空知太ナヨロ間	三十里	金三十万圓	全
濱益樺戸間	十三里	金十一万二千圓	全
定山溪此田間	十五里	金十二万圓	全
尻別原野全川口間	十六里	金十二万八千圓	全
笹小屋惣助間	四里	金三万二千圓	全
小樽尻別原野間	十里五分	金八万四千圓	全
大江村余市水原間	七里	金五万六千圓	全
岩内古平間	九里	金七万二千圓	全
昆布川口ラブケン間	七里	金五万六千圓	全
雷馬雷馬間	四里五分	金三万六千圓	全
黒松内賀春別間	六里	金四万八千圓	全
國縫利別間	十四里	金十一万二千圓	全
遊樂部見市間	九里	金七万二千圓	全
落部俄虫間	十二里	金九万六千圓	全
木古内北村間	八里	金六万四千圓	全
下湯ノ川河汲間	六里	金四万八千圓	全
錢龜澤龜尾間	一里五分	金一万二千圓	全
古武井根法華間	一里	金八千圓	全
七重鹿部間	六里	金四万八千圓	全

禮文華ベタス間	一里五分	金一万二千圓	全
美々鶴川原野間	九里	金七万二千圓	全
千歳夕張原野間	六里	金四万二千圓	全
幌内太空知炭山間	十二里	金十万八千圓	全
島松アンノロ間	八里	金五万六千圓	全
雨龍太エタン別間	十二里	金十二万圓	全
雨龍太ヤスシハラ間	六里	金六万圓	全
アンノロ虹別間	五里	金三万五千圓	全
沙流太沙流太原野間	二十二里	金十九万八千圓	全
新冠新冠原野間	八里	金七万二千圓	全
染退染退原野間	九里	金八万千圓	全
浦河幌別大津間	二十五里	金二十二万五千圓	全
利別屈足間	十九里	金十七万千圓	全
利別美利別間	九里	金八万千圓	全
美利別美利別原野間	八里	金七万二千圓	全
白糖チヨロ足寄間	十八里	金十六万二千圓	全
十勝川ロベケントク間	二十七里	金二十七万圓	全
五厘澤俄虫間	三里	金二万千圓	全
目名熱鄂間	八里	金六万四千圓	全
岩内硫黄山間	四里七分	金三万七千六百圓	全

額別天鹽間 厚岸虹別間 濱中津菜内間 弟子屈ワッロフ井間 忠別天鹽川口間 歷舟猿別間 尻岸内龜尾間 白糠チヨロ洞佛間 斜里忠別間	計	八里 五里五分 十四里六分 五里五分 五十里 十八里五分 三里五分 十三里 十二里	金十二万圓 金四万八千圓 金十三万四千四百圓 金四万九千五百圓 金五十万圓 金十六万六千五百圓 金二万四千五百圓 金十一万七千圓 金十二万圓	金一万圓 金八千圓 金九千圓 全 金一万圓 金九千圓 金七千圓 金九千圓 金一万圓
奥尻島 擇捉島 禮文尻島	道路 道路 道路		金七百卅七万三百圓 金四万八千圓 金十二万圓 金四万八千圓	
計			金七十一万六千圓	
上川市街 空知太市街 札幌市街 江差市街	道路 修繕 修繕 改良		金七万七千五百十圓 金三万圓 金五万圓 金五万圓	

室蘭市街 岩内市街 釧路市街 根室市街 小樽市街 福山市街 函館市街 網走市街	改良 改良 道路 道路 道路 道路 道路 道路		金二万圓 金二万圓 金五万圓 金五万圓 金五万圓 金一万圓 金三万圓 金二万圓	
計			金四十一万七千五百十圓	

排水堤防河浚并橋梁工費

上川 雨龍 樺戸 夕張 空知 尻別 天鹽 室蘭	原野 原野 原野 原野 原野 原野 原野 原野	金十万圓 金十万圓 金三万五千圓 金二万五千圓 金五万圓 金三万圓 金五万圓 金二万圓		
--	--	--	--	--

明治四年	年次	既成	新長	修工	理	新	費	計	十五ヶ年	度	明治四年より廿四年に至る既成道路は五百八十四里餘其新開は百四十六里餘又其修理費は通計二万七千五百八十五圓餘新開費は十五万五千五百七十圓なり今其の統計を左に掲ぐ					河道 水港 溝道 渠路 橋樑 橋樑 防	科目	保存費	劍 北 天 石 日 渡 路 見 鹽 狩 高 島 國 國 國 國 國 國 花 釧 厚 濱 網 猿 留 增 石 浦 函 江 咲 路 岸 中 走 洞 崩 毛 河 館 差 港 灣 港 灣 港 灣 灣 口 灣 灣 灣 港 港 港 金 一 万 七 千 九 百 九 十 兩 金 六 十 八 萬 四 千 八 百 兩 金 九 十 九 萬 三 千 兩 金 卅 七 萬 五 千 九 百 八 十 兩 金 七 十 五 萬 二 千 二 百 兩 金 十 五 萬 二 千 三 百 兩 金 百 二 萬 八 千 四 百 兩 金 卅 五 萬 三 千 八 百 兩 金 四 十 三 萬 三 千 七 百 六 十 兩 金 卅 二 萬 九 千 七 百 七 十 兩 金 卅 二 萬 九 千 七 百 卅 四 兩 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全				
											二二二二 十十十十 七六五四 年 年 年 年 金 卅 二 萬 五 千 六 百 兩 金 二 十 五 萬 二 千 兩 金 卅 七 萬 八 千 四 百 兩 金 卅 三 萬 四 千 八 百 兩 金 卅 三 萬 三 千 二 百 兩 金 卅 五 萬 七 千 六 百 兩 金 卅 八 萬 四 千 兩 金 卅 四 萬 四 百 兩 金 四 十 三 萬 六 千 八 百 兩 金 四 十 六 萬 三 千 二 百 兩 金 四 十 八 萬 九 千 六 百 兩 金 四 百 四 十 五 萬 二 千 兩	二二二二 十十十十 七六五四 年 年 年 年 金 卅 二 萬 五 千 六 百 兩 金 二 十 五 萬 二 千 兩 金 卅 七 萬 八 千 四 百 兩 金 卅 三 萬 四 千 八 百 兩 金 卅 三 萬 三 千 二 百 兩 金 卅 五 萬 七 千 六 百 兩 金 卅 八 萬 四 千 兩 金 卅 四 萬 四 百 兩 金 四 十 三 萬 六 千 八 百 兩 金 四 十 六 萬 三 千 二 百 兩 金 四 十 八 萬 九 千 六 百 兩 金 四 百 四 十 五 萬 二 千 兩	二二二二 十十十十 七六五四 年 年 年 年 金 卅 二 萬 五 千 六 百 兩 金 二 十 五 萬 二 千 兩 金 卅 七 萬 八 千 四 百 兩 金 卅 三 萬 四 千 八 百 兩 金 卅 三 萬 三 千 二 百 兩 金 卅 五 萬 七 千 六 百 兩 金 卅 八 萬 四 千 兩 金 卅 四 萬 四 百 兩 金 四 十 三 萬 六 千 八 百 兩 金 四 十 六 萬 三 千 二 百 兩 金 四 十 八 萬 九 千 六 百 兩 金 四 百 四 十 五 萬 二 千 兩	二二二二 十十十十 七六五四 年 年 年 年 金 卅 二 萬 五 千 六 百 兩 金 二 十 五 萬 二 千 兩 金 卅 七 萬 八 千 四 百 兩 金 卅 三 萬 四 千 八 百 兩 金 卅 三 萬 三 千 二 百 兩 金 卅 五 萬 七 千 六 百 兩 金 卅 八 萬 四 千 兩 金 卅 四 萬 四 百 兩 金 四 十 三 萬 六 千 八 百 兩 金 四 十 六 萬 三 千 二 百 兩 金 四 十 八 萬 九 千 六 百 兩 金 四 百 四 十 五 萬 二 千 兩	二二二二 十十十十 七六五四 年 年 年 年 金 卅 二 萬 五 千 六 百 兩 金 二 十 五 萬 二 千 兩 金 卅 七 萬 八 千 四 百 兩 金 卅 三 萬 四 千 八 百 兩 金 卅 三 萬 三 千 二 百 兩 金 卅 五 萬 七 千 六 百 兩 金 卅 八 萬 四 千 兩 金 卅 四 萬 四 百 兩 金 四 十 三 萬 六 千 八 百 兩 金 四 十 六 萬 三 千 二 百 兩 金 四 十 八 萬 九 千 六 百 兩 金 四 百 四 十 五 萬 二 千 兩				二二二二 十十十十 七六五四 年 年 年 年 金 卅 二 萬 五 千 六 百 兩 金 二 十 五 萬 二 千 兩 金 卅 七 萬 八 千 四 百 兩 金 卅 三 萬 四 千 八 百 兩 金 卅 三 萬 三 千 二 百 兩 金 卅 五 萬 七 千 六 百 兩 金 卅 八 萬 四 千 兩 金 卅 四 萬 四 百 兩 金 四 十 三 萬 六 千 八 百 兩 金 四 十 六 萬 三 千 二 百 兩 金 四 十 八 萬 九 千 六 百 兩 金 四 百 四 十 五 萬 二 千 兩				

道路港灣

道路港灣

全	廿四年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	廿三年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	廿二年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	廿一年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	二十年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	十九年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	十八年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	十七年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	十六年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	十五年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	十四年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	十三年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	十二年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	十一年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	十年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	九年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	八年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	七年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	六年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二
全	五年	五八四〇九〇二	一四六,七五八	一七五,八二九	一五,七〇二

松前郡
第十六編 名望家實業者及有志家
紳士農業家漁業者及有志家

現住所番地	氏名	現住所番地	氏名
松前郡山唐津内町三十八番地	吉田三郎右衛門藏	松前郡山松城町四十四番地	岡田傳五郎
全郡全	岩田金藏	全郡全唐津内町五十六番地	石館清太郎
全郡全	山本久右衛門藏	全郡全	岩田正吉
全郡全	小松前町五番地	全郡全	伊達翁配
全郡全	全廿九番地	全郡全	船谷久右衛門
全郡全	全六番地	全郡全	中塚寅之丞
全郡全	泊川町二十番地	全郡全	岩田又七
全郡全	總社町百七番地	全郡全	三上中吉
全郡全	松島町字濱中廿九番地	全郡全	金子定吉
全郡全	全六十三番地	松前郡兩垂石村廿八番地	花田傳七
全郡全	全十番地	全郡全	佐々木榮吉
全郡全	全卅八番地	松前郡大澤村字大澤十六番地	新山伊三郎
全郡全	根田村十六番地	全郡全	前田富太郎
全郡全	炭燒澤村字横瀬十二番地	全郡全	松橋彌太郎
全郡全	福山新庄町三十一番地	全郡全	

名望家實業者及有志家

六百三十七

全郡全 全四番地
全郡全 全十六番地

新田 經 戒
阪本 篤

全郡全 全唐津内町三番地
全郡全 小松前町八番地

田中 藤右衛門
沖崎 仁兵衛

檜山外五郡

紳商漁業家農業者及有志家

檜山郡江差姥神町十八番地
檜山郡田澤村二十一番地
全郡全 全十九番地
全郡 伏木戸村三番地
全郡 御勝手村字上町
全郡 江差九艘川町七番地
留志郡相沼内村四十三番地
全郡 熊石村字中歌十三番地
松山郡江差九艘川町
全郡 全上野町二十番地
全郡 切石町十五番地
全郡 姥神町五十番地

關川 與左衛門
飯田 富五郎
長谷川 福藏
津村 善作
小黒 嘉右衛門
泊谷 喜八
山田 友右衛門
佐野 四右衛門
新村 久兵衛
松本 前讓
橋本 平
關川 茂平

檜山郡江差姥神町四十五番地
全郡全 全三十七番地
全郡全 全三十番地
全郡全 全四十四番地
全郡 江差姥神町十八番地
留志郡相沼内村三十七番地
全郡 熊石村字掛洞
松山郡江差中歌町十五番地
全郡 江差酒田町三番地
全郡 全法華寺町二十六番地
全郡 熊石村字盛岩

永瀧 松太郎
伊口 伊右衛門
西澤 喜三
大島 重太郎
加藤 重兵衛
山田 文右衛門
佐野 甚右衛門
上林 常七
内田 倉次郎
矢水 小三郎
荒井 幸作

壽都外三郡
壽都郡

壽都 大磯町

商

中田 勝造
佐々木 善四郎
内山 喜兵衛
松井 源内
名畑 佐久
土谷 重右衛門
赤坂 五三郎

壽都 大磯町
六條町
矢追町
政治村

漁業

岩野 三太郎
甲谷 龜太郎
中田 善八郎
藤原 甚太郎
桑原 松藏
工藤 宇右衛門
大崎 清四郎

島牧郡

島牧郡 本目村
全
全 輕臼村
全
全

漁業

村川 善四郎
金谷 兼吉
澤村 八太郎
阿部 松之助
堤部 三郎

島牧郡 輕臼村
全
全 永豐村
全 原歌村
全 千走村

漁業

横山 庄右衛門
木村 岩藏
小川 九右衛門
藤田 由松
橋本 林藏

歌樂郡

歌樂郡 湖路村
全
全

商

千葉 幸吉
櫻庭 庄兵衛

島牧郡 美谷村
全
全 種別村

漁業

岡田 中小三郎
岡田 金作

名實家實業者及有志家

六百四十一

磯谷郡	磯谷郡橫洞村 全 磯谷郡能津登村 全 磯谷郡能津登村 全 磯谷郡古丹村 全 磯谷郡能津登村 全	佐藤榮五郎 山川八百藏 藤田常作 伊山左衛門 村田庄助 種村道味	全 全 全 全 全	佐藤榮右衛門 西澤香吉 全作開村 全 高橋清吉 全 高橋留藏	漁業 農業 農業 農業 農業 農業	有珠郡黃金郷村一番地 此田郡虹田村二番地 磯別郡磯別村百拾六番地 有珠郡東紋蔵村十一番地 全全二十番地 全全六十三番地 全全二十三番地	室蘭外五郡 室蘭郡札幌通四十三番地 此田郡虹田村字洞爺 有珠郡西紋蔵村四十一番地 全全全百番地 全全全九十七番地 勇拂郡覺生村四番地 有珠郡有珠村番外地	田村顯允 松尾万次郎 日野久橘 岩間彌之助 大堀貞知 菅場久米三郎 鎌田新三郎 菊地利平	本多政新 三野貫一 小野友規 佐藤勇八 太田細勇 猪狩清右衛門 小島小三郎 京谷卯之松
-----	--	---	-----------------------	--	----------------------------------	---	---	---	--

浦河外六郡	浦河郡 全 靜内郡 全 新冠郡 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全	飯川信三 半川半造 武田實藏 山本保兵衛 中山與吉 中山倉松 青山芳松 瀬川芳藏 山谷覺治 池田實之助 原中善三郎 田中義太 木村幸太郎 石田幸吉 田中幸吉 西岡忠 堀西忠	靜内郡 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全	及川甚兵衛 西田玄二郎 西田文吉郎 高橋万太郎 梯良平 藤澤佐右衛門 和田長兵衛 小林重吉 小林壽吉 小呂五郎 岡本七郎 野呂七郎 扇谷仁太郎 林谷重吉 寺井重之 守田安右衛門 藤井長兵衛 澤村又藏
-------	---	--	--	--

名實家實業者及有志家

六百四十一

名望家實業者及有志者

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
静	内	流	沙	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
岡	上	友	渡	互	小	目	池	中	三	矢	本	兼	太	吉	全	全	全	全	全
田	田	成	邊	野	林	黒	田	澤	上	兼	太	吉	全	全	全	全	全	全	全
齋	甚	又	伊	留	善	多	次	廣	兵	太	吉	全	全	全	全	全	全	全	全
助	助	郎	平	作	助	郎	治	衛	郎	吉	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

六百四十二

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
岩	岩	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
武	濱	佐	長	大	梅	武	濱	佐	長	大	梅	武	濱	佐	長	大	梅	武	濱	佐
藤	野	川	彦	順	市	藤	野	川	彦	順	市	藤	野	川	彦	順	市	藤	野	川
清	喜	三	幸	郎	衛	清	喜	三	幸	郎	衛	清	喜	三	幸	郎	衛	清	喜	三
兵	郎	吉	郎	衛	兵	郎	吉	郎	衛	兵	郎	吉	郎	衛	兵	郎	吉	郎	衛	兵
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
岩	岩	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古	古
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
金	吉	西	澤	瀧	山	金	吉	西	澤	瀧	山	金	吉	西	澤	瀧	山	金	吉	西
澤	田	宮	口	川	崎	澤	田	宮	口	川	崎	澤	田	宮	口	川	崎	澤	田	宮
長	常	利	庄	要	友	長	常	利	庄	要	友	長	常	利	庄	要	友	長	常	利
郎	吉	郎	助	作	七	郎	吉	郎	助	作	七	郎	吉	郎	助	作	七	郎	吉	郎
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

紳士紳商農漁業家財產家及有志者

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

名望家實業者及有志者

六百四十三

全全西三丁目	藥店	中 龍△	佐々木喜造
全全西四丁目	刺煮商店		後藤銚太郎
全全三條西一丁目	乾物業	笠原喜助	新妻清吉
全南二條西一丁目	酒造業	三島常盤	眞野重兵衛
全南三條西一丁目	寫真師	眞野源藏	南部源藏
全全西三丁目		池田慎太郎	網島右源太
全全西四丁目		佐藤倉吉	澤井市造
全全西六丁目	受負業	岡部盛藏	向井嘉兵衛
全南四條西二丁目		向井兵衛	
全全			
全全			

全全西三丁目	林檎及苗木	列 天 其 和	笠原平次郎
全全西四丁目	質物商		山崎孝太郎
全全西二丁目	林檎及苗木	五十嵐久助	大槻吉直
全南五條西八丁目		阿部隆明	若月爲吉
全全		若月幸七	中村惟隆
全全		水原寅藏	前野長發
全全西三丁目	書籍店	小鹽武吉	奥泉清吉
全全東一丁目	太物商	柴田與次右衛門	村岡治右衛門
全全東四丁目	酒造業	芳賀元右衛門	
全全二條東二丁目			

札幌區南三條東三丁目
 全全 東二丁目
 全全 全
 全南四條東三丁目
 全全 全
 札幌郡豐平村
 全全 全
 全全 全
 札幌區北一條東五丁目
 全全 東一丁目
 全北二條東二丁目
 全全 東三丁目
 全全 東二丁目
 全全 西四丁目
 全北七條西三丁目

受 負 業
 酒 造、及 荒 物 業
 酒 造 業
 酒 造 業
 薪 炭 業
 荒 物 商 業
 牧 畜 業
 製 糸 業
 酒 造 業
 葡 萄 酒 製 造 業
 旅 送 業
 運 送 業

羽 長 元 司 井

阿 部 久 四 郎
 小 林 榮 藏
 本 間 長 助
 堀 内 龍 太 郎
 本 郷 嘉 之 助
 阿 部 仁 太 郎
 阿 部 與 之 助
 山 崎 清 躬
 辰 野 宗 城
 足 立 民 治
 對 馬 嘉 三 郎
 谷 七 太 郎
 永 山 盛 繁
 大 竹 敬 助
 富 益 根 道

札幌區北一條西一丁目
 全北五條西四丁目
 全北三條西四丁目
 全全
 全南一條西五丁目
 全全 西三丁目
 全北八條西一丁目
 全北四條東一丁目
 全全 西三丁目
 全北一條東二丁目
 全北五條西十四丁目
 全北二條東三丁目
 全北二條西十一丁目
 全南一條西五丁目
 全全 西二丁目

洋 服 業
 受 負 業
 吳 服 太 物 業
 運 送 業
 機 織 業
 酒 造 業
 全 業

井 會 日

宇 野 季 吉
 伊 吹 鎗 造
 代 山 長 兵 衛
 阿 部 宇 之 八
 土 肥 糸 次 郎
 石 田 九 平
 平 田 類 右 衛 門
 福 士 成 豐
 新 田 由 平
 安 田 德 治
 瀧 本 五 郎
 二 木 彦 七
 堀 木 彦 七
 小 野 辰 五 郎
 朝 明 門 吉

札幌區大通東四丁目 全 南一條西一丁目 全 南四條西五丁目 札幌郡苗穂村 札幌區北一條西十四丁目 札幌郡篠路村 札幌區南二條西七丁目 石狩郡親船町 全 全 厚田郡厚田村 全 安瀨村 全 全 全 全 全 厚田村 濱益郡	農具製作 受 負 業 全 業	深野正之助 齋藤斧三郎 宮前九平 水森源五郎 森源三 笠原文平 工藤梅次郎 古谷長兵衛 中島房藏 佐藤辨藏 佐藤長左衛門 池田米吉 笠原万藏 中居儀助 田中武左衛門
--	----------------------	--

全 群別村 全 全 石狩郡横町 厚田郡厚田村 濱益郡 全 茂生村 石狩郡 厚田郡厚田村 濱益郡群別村 空知郡市來知村 樺戸郡月形村 空知郡瀧川村 同 村 釧路外三郡	吳服小間物商 全 全 旅 人 宿	○	長谷川忠助 木村甚吉 井尻靜藏 豐澤ヨロ 木村圓吉 本間豊七 村山ノノ 中居米吉 木村源右衛門 左右又七 小鹽清作 杉本勇治 高畑利宣
---	------------------------	---	---

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

右の内一万圓以上の資産を有するもの六人、三万圓以上のもの一人、五万圓以上の者壹人にて多額納税者七百拾八圓は熊谷泰藏氏五百九拾一圓五拾錢五厘は武富隆太郎氏百貳拾七圓は田中正右衛門氏等なり

紳商漁業家農業者

現住	現住	現住	現住	現住	現住	現住	現住	現住	現住	現住
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

全	花園町	倉橋大介	全	開運町	向井嘉兵衛
全	手宮町	藤田重道	全	瀨町	林清一
全	稻穂町	小堀恒雄	全	境町	田口梅太郎
余市郡澤町	小樽郡山田町	遠藤大太郎	全	境町	東口幸三郎
余市郡澤町	古平郡濱町	林長左衛門	全	南濱町	遠藤又兵衛
小樽郡瀨町	全 郡入舟町	關口利勝	全	境町	板谷宮吉
全 郡入舟町	全 色内町	岡田八十次	全	境町	西谷庄八
余市郡濱中町	全 山碓町	奥山清左衛門	全	濱中町	小川崎曾平
全 山碓町	高島郡祝津村	德光大次郎	全	山碓村	福原才七
高島郡祝津村	小樽郡祝津村	白島榮作	全	濱中町	奧寺德太郎
小樽郡祝津村	高島郡祝津村	青邊兵四郎	全	濱中町	廣谷源治
小樽郡祝津村	高島郡祝津村	福長作太郎	全	小泊村	仲谷勇二
高島郡祝津村	忍路郡桃内村	木村常八郎	全	積丹郡西川村	久末善右衛門
全 郡鹽谷村	全 郡鹽谷村	山田忠兵衛	全	高島郡色内町	中川倉吉
全 郡鹽谷村		堀内香次郎	小樽郡金鑿町		須田小左衛門

余市郡山碓村	小樽郡山ノ上町	猪俣安之丞	全	入船町	早川雨三
全 全	全 入舟町	直江久兵衛	余市郡澤町	全 町	中山安太郎
高島郡色内町	全 手宮町	沼田喜三郎	全 町	仲町	笠井安太郎
全 手宮町	小樽郡錢函村	渡邊竹五郎	全 仁木村	全 一治	小川全治
全 張碓村	全 開運町	川島房吉郎	全 濱町	全 七	種田德之丞
全 開運町	高島郡手宮裡町	山崎彌八郎	全 全	全 全	高野常吉
全 手宮町	高島郡高島村	鈴木市次郎	全 全	全 全	幾井久七
高島郡高島村	忍路郡忍路村	村住三右衛門	小樽郡相生町	全 全	原田元貞
全 開島村	全 開島村	菊地喜兵衛	小樽郡稻穂町	全 全	尾本多治兵衛
小樽郡開運町	全 色内町	丸山三郎	全 全	全 全	大竹作右衛門
全 色内町	美國郡小泊村	馬山雷雲郎	全 全	全 全	櫻井常次郎
美國郡小泊村	積丹郡日司村	荒木友吉郎	全 全	全 全	山頭次郎
積丹郡日司村	小樽郡色内町	出島忠正郎	全 全	全 全	福井平助
小樽郡色内町	余市郡濱中町	石塚彦三郎	全 全	全 全	佐藤幸助
余市郡濱中町		中村彌五郎	全 全	全 全	磯野與助
			全 全	全 全	長谷川岩作
			全 全	全 全	本間金平

全 沖村	大村由太郎	全 全	白井房太郎
高島郡稻穂町	田中義伸	忍路郡忍路村	西崎榮作
全 高島村	寺田文藏	余市郡山碓町	川村善藏
全 祝津村	中里三郎	全 全	横濱村竹藏
古平郡澤江村	米田勇吉	忍路郡忍路村	中村仁助
全 全	田岸定治	全 蘭島村	大場庄兵衛
積丹郡出岬村	仲谷齊吉	積丹郡上岬村	福島榮三郎

龜田外三郡

龜田郡龜田村	新榮新三郎	龜田郡大野村	中村長兵衛
全 大野村	近江新三郎	全 尻岸内村	赤井松助
全 石崎村	松代孫兵衛	上磯郡知内村	藤野德藏
全 龜澤村	蛭子太郎左衛門	全 上磯村	種田德之助
全 龜田村	佐野定七	全 茂邊地村	佐藤彌惣右衛門
全 大野村	中村金兵衛	全 水碓村	本庄五左衛門
全 本郷村	新榮久兵衛	茅部郡森村字柳原	阿部重吉
全 市渡村	川崎吉兵衛	全 全	落合幸助
全 赤川村	工藤嘉兵衛	全 白尻村	小川幸一郎
全 尻岸内村	松本惣助	全 長水郡村	飯田清次郎

茅部郡長札部村	今津カッ	上磯郡木古内村字上木古内	竹田傳五郎
全 姥谷村	松田龜太郎	山越郡八重村字サランバ	片桐助作
全 上磯郡上磯村	種田幸右衛門	全 長万部村	竹内彌兵衛
全 全	全 山越内村		竹内幸輔

現 住 所	姓 名	現 住 所	姓 名
增毛郡辨天町壹丁目	小野寺喜兵衛	增毛郡稻葉町一丁目	小林總次郎
全 稻葉町一丁目	本間秀藏	全 辨天町一丁目	上野房次郎
全 辨天町一丁目	本間泰藏	全 全	佐藤兵吉
全 全	原田權藏	全 全	岩口忠平
全 阿分村	松江喜藏	全 辨天町一丁目	屋敷二作
全 別蒔村	笠原真吉	全 畑中町一丁目	新沼良策
全 阿分村	田中平助	全 全	川崎幸作
全 全	石田駒吉	全 岩尾村	丸山貞五郎
全 全	相馬留吉	留筋郡禮受村	成田精五郎
全 舍熊村	布野留秀藏	全 留筋村	佐賀庄五郎
全 全	平野直太郎	全 禮受村	五賀庄五郎
全 增毛村	天谷卯之作		能登庄吉
			岩田正吉

全日本郵船會社出張店支配人
全三井銀行支店支配人
全三井物産會社出張店支配人
國後

漁
益城速雄
磯野員爲
海老名義路
堀内熊藏
全別海村
國後
全
根室國根室村

全
全
全
農
松葉松三郎
永塚良吉
植木壽吉
岩崎織之助

第十七編 區會議員及總代人

區會議員

函館區

網塚忠兵衛商	大町十七番地	與村忠兵衛商	末廣町百十二番地
金子利吉商	地藏町四十五番地	三田巳藏商	若松町九番地
平出喜三郎商	舟見町百十一番地	高橋文之助商	曙町壹番地
工藤彌兵衛商	大町三十八番地	遠藤吉兵衛商	元町四十番地
和田惟一商	東濱町三十番地	平田文右衛門商	末廣町十番地
馬場民則 <small>入代</small> 商	會所町五十三番地	種田直右衛門商	鶴岡町百八番地
齋藤政七商	末廣町四十九番地	小川幸兵衛商	末廣町百十番地
竹内與兵衛商	室町三十五番地	逸見小右衛門商	末廣町八十四番地
田中正右衛門商	舟見町百四十三番地	林宇三郎商	辨天町十八番地

以上十八人外に二名の辭職者あり目下選舉取調中なり

總代人

松前郡 福山市街總代人會に於ては毎年度町村費の收支決算を調査し豫算を議定す其議論着實舉動沈靜にして最も美風を存す其人名職業左の如し

區會議員及總代人